

# 学 習 の 手 引 き

( 令 和 7 年 度 )

愛知県立総合看護専門学校

第 一 看 護 科

## 教育理念

生命を尊重し、対象に深い関心を寄せ、調和のとれた看護実践者の育成を目指す。  
あらゆる看護の場において、対象の健康のために、科学的根拠に基づいた看護が実践できる教育を行う。

常に責任感と倫理観をもって行動でき、看護の質向上のために自己研鑽し、社会に貢献できる専門職業人を育成する。

## 教育目的

愛知県立総合看護専門学校は、看護に関する専門の知識及び技能を修得させ、もって社会に有為な看護師を育成することを目的とする。

## 教育目標

- 1 人間を身体的・精神的・社会的・文化的に統合された存在として、幅広く理解する能力を養う。
- 2 看護師として必要な人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。
- 3 人々の多様な価値観を尊重し、倫理観に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 4 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉システムにおいて、多職種と連携・協働しながら人々への看護を提供する基礎的能力を養う。
- 6 専門職業人として社会の動向に目を向け、看護の質の向上をめざし、新しい知識、技術を主体的に学び続ける姿勢を養う。

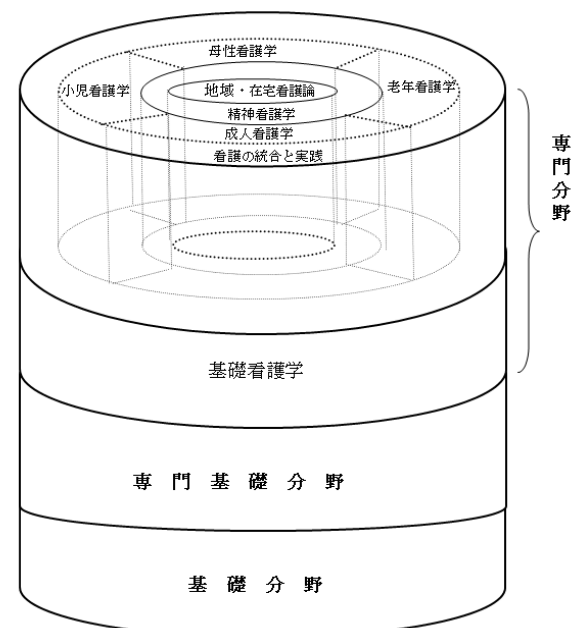
## カリキュラム・ポリシー

- 1 総合看護専門学校のカリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で構成し、3年間で114単位、3,000時間を修得する。看護職としての社会人基礎力を教育全般に取り入れつつ、育てたい6つの力「人間を理解しようとする力」「コミュニケーション能力」「専門職としての倫理的態度」「看護実践能力」「連携・協働できる能力」「専門職としての学び続ける姿勢」を育成するための諸要素として抽出した概念、理論、技術、態度を、各学年を通して経験しながら累積させていくカリキュラムとする。
- 2 基礎分野は科学的思考の基盤と、人間と社会の仕組みを幅広く理解し、社会の変化に対応できる能力、情報通信技術を活用するための基礎的能力の基盤を学ぶ。
- 3 専門基礎分野は人間の身体的側面の理解、保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割を学ぶ。
- 4 専門分野は看護の基礎的理論の理解及び看護技術を習得する内容と、人間は生活を営み、集団や地域をつくる存在として低学年次から関りをもち、又、地域における暮らしを支える看護を理解できるように科目を配置して、多職種と協働する看護の実践を学ぶ。さらに、知識と実践を往還的に学び、臨床実践能力を高めていく内容とする。
- 5 臨地実習は、その人の健康のためにどのような看護が必要か気づき、判断し行動できる実践力を身につけるために、看護実践とリフレクションによる経験の意味づけにより個別の状況に応じた看護を学べるよう支援し、その成果をパフォーマンスで評価する。
- 6 自らの目指す看護師になるために自己のゴールを明確にし、3年間で主体的に学習していけるよう、プロジェクト学習を取り入れる。
- 7 主体的に考え、自ら判断し行動できるように、多様な学習機会を提供する。
- 8 授業目標、授業方法に合わせた多様な評価方法を取り入れ、適正な評価を行い、学習目標の達成度を総合的に評価する。
- 9 対象に関心を寄せること、思いを尊重し多様な価値観を認めること、生命の尊厳を守ること、倫理観をもって行動できる看護実践者としての人間性を育んでいくために、授業科目、学校行事や特別教育活動、地域貢献活動等を全学年にわたり配置する。

### カリキュラムの構造図

基礎分野は、専門基礎分野・専門分野を土台とし、専門基礎分野は、専門分野の基礎とする。

看護学を学ぶ専門分野は、基礎看護学を土台として位置付けた。人間を成長発達段階からとらえ、あらゆる人々の生活の場での看護を学ぶ地域・在宅看護論と精神看護学を中心に配置し、その周囲に、小児看護学・成人看護学・老年看護学・母性看護学を置いた。各看護学を包含する意味から、看護の統合と実践を外側から覆うような位置に置いた。



ディプロマ・ポリシー 本校が目指す卒業生の特性と各学年目標

育てたい力	本校が目指す卒業生の特性	1 年次	2 年次	3 年次
1 人間を理解しようとする力	(1) 人間を身体的・精神的・社会的・文化的に統合された存在であることを理解している。 (2) 人間を、誰一人として同じではなく、かけがえのない存在であることを理解している。 (3) 人間を、変化する環境と絶えず相互作用する存在であることを理解している。 (4) 人間を、生活を営み、集団や地域をつくる存在であることを理解している。 (5) 人間を、尊厳をもち自律した存在であることを理解している。	人間は集団や地域の中で他者と関わりながら生活する4側面をもつ存在であることを理解できる。	各発達段階の特徴と健康障害が対象の4側面や暮らしに与える影響を理解できる。	看護の対象をかけがえのない存在であると認識し、4側面から総合的に理解できる。
2 コミュニケーション能力	(1) 自己の傾向が分かり、自分の課題を意識しながらコミュニケーションをとる。 (2) コミュニケーションが人々との相互の関係に影響することを理解している。 (3) 対人技法を用いて、信頼関係の形成に必要なコミュニケーション能力を有している。 (4) 看護に必要な情報を対象の状況に合わせた方法で収集する。 (5) 人と協働できる力を有している。	自己の傾向が分かり、他者に与える影響を考えて、コミュニケーションがとれる。	互いを尊重し、対象の反応や状況に合わせたコミュニケーションをとることができる。	チームの一員として状況に応じたコミュニケーションをとり、協働することができる。
3 専門職としての倫理的態度	(1) 対象の意見・価値観を認め、尊重することができる。 (2) 看護師として、倫理観に基づいた判断・行動ができる。 (3) 生命の尊厳を守り、対象の人権を擁護した行動ができる。	看護学生としての自覚をもち、偏見や先入観をもたずに相手の意見を尊重し、自己の役割を認識して行動する。	専門職業人としての倫理観を理解し、看護学生として自覚と責任をもって行動する。	専門職業人としての倫理観に基づいて、自律的に行動する。
4 看護実践能力	(1) 安全・安楽・自立に向けた看護実践のための知識・技術・態度を有している。 (2) 疾病の予防、健康の維持・増進・健康の回復、心身の安寧にかかる看護を実践する力を有している。 (3) 科学的根拠に基づいて看護を実践する力を有している。 (4) 個人、家族に対して看護を実践する力を有している。 (5) あらゆる成長発達段階の対象に看護を実践する力を有している。 (6) あらゆる場における看護を実践する力を有している。 (7) 対象のその場の状況に合った看護を提供するための、臨床判断の基礎的能力を有している。	科学的根拠に基づいた、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助を実施できる。	さまざまな発達段階や健康レベルにある対象に、気づきを基にした看護を実践・省察できる。	あらゆる状況に応じた最善の看護を目指し、判断のもと看護が実践できる。
5 連携・協働できる能力	(1) 保健・医療・福祉システムにおける看護の活動領域、役割を理解している。 (2) 保健・医療・福祉システムにおける多職種協働の場で看護の役割を発揮できる。	保健・医療・福祉の動向について理解し、関係する職種について興味・関心をもつ。	対象を取り巻く保健・医療・福祉システムの活動を理解し、看護のアイデンティティを自覚する。	保健・医療・福祉システムにおける看護師の一員として行動できる。
6 専門職としての学び続ける姿勢	(1) 看護を取り巻く社会の変化に対して幅広い視野をもつ姿勢が身についている。 (2) 主体的に学び続ける姿勢が身についており、看護の質の向上・発展に貢献できる。	看護とは何かを主体的に考え、自己の目標とする看護師像を表現する。	自らの理想とする看護師像を目指し、計画的に学習し続ける。	常に変化する社会の動向を捉え、自己の看護観や看護実践能力を向上し続けるよう努力する。

## プロジェクト学習「〇〇の看護師へのキセキ☆彗」(ビジョン・ゴール)

本校では、学生が自ら目指す看護師になるために目標を持ち、主体的な学習ができるよう、課題解決型学習(プロジェクト学習)を取り入れている。自分のなりたい看護師像(ビジョン)を明確にし、「〇〇の看護師へのキセキ☆彗」を作成している。その看護師像に確実に到達できるように、1年次・2年次・3年次の終了時にどんな姿になっていたいか、学校生活や実習を通して何ができるようになりたいか(ゴール)を各学年の始めに、本校が目指す卒業生の特性と各学年目標を基に考え記載している。学年目標は、中間、学年末に評価し、各学年の終了時には、次の学年への課題を明確にして卒業時に到達できるようにしている。自分自身の課題を明確にすることで、自己認識をする機会となり、段階的な成長を期待することができる。

将来、どんな看護師になりたいですか？



目指す看護師になるために、各学年終了時に何ができるようになりたいですか？  
自由に考えてみよう！

1年生

自分にコメント

2年生

自分にコメント

3年生

自分にコメント



<評価> 4: パッチリ! (〇) V 3: まあまあ 2: もうちょっと 1: 反省(T.T)

1年生の学年目標	結果	
1 人間は集団や地域の中で他者と関わりながら生活する4側面をもつ存在であることを理解できる。		
2 自己の傾向が分かり、他者に与える影響を考えて、コミュニケーションがとれる。		
3 看護学生としての自覚をもち、偏見や先入観をもたずに相手の意見を尊重し、自己の役割を認識して行動する。		
4 科学的根拠に基づいた、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助を実施できる。		
5 保健・医療・福祉の動向について理解し、関係する職種について興味・関心をもつ。		
6 看護とは何かを主体的に考え、自己の目標とする看護師像を表現する。		

2年生の学年目標	結果	
1 各発達段階の特徴と健康障害が対象の4側面や暮らしに与える影響を理解できる。		
2 互いを尊重し、対象の反応や状況に合わせたコミュニケーションをとることができる。		
3 専門職業人としての倫理観を理解し、看護学生として自覚と責任をもって行動する。		
4 さまざまな発達段階や健康レベルにある対象に、気づきを基にした看護を実践・省察できる。		
5 対象を取り巻く保健・医療・福祉システムの活動を理解し、看護のアイデンティティを自覚する。		
6 自らの理想とする看護師像を目指し、計画的に学習し続ける。		

3年生の学年目標	結果	
1 看護の対象をかけがえのない存在であると認識し、4側面から総合的に理解できる。		
2 チームの一員として状況に応じたコミュニケーションをとり、協働することができる。		
3 専門職業人としての倫理観に基づいて、自律的に行動する。		
4 あらゆる状況に応じた最善の看護を目指し、判断のもと看護が実践できる。		
5 保健・医療・福祉システムにおける看護師の一員として行動ができる。		
6 常に変化する社会の動向を捉え、自己の看護観や看護実践能力を向上し続けるよう努力する。		

教育課程及び年次別予定単位・時間数

科 目				単位	時間	1年予定		2年予定		3年予定		科 目				単位	時間	1年予定		2年予定		3年予定				
						単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間			単位	時間	単位	時間	単位	時間			
基礎分野		哲 学	学	1 単位	30時間	1	30					地域・在宅看護論	地 域・在宅看護概論Ⅰ (人々の暮らしを支える)	1 単位	15時間	1	15									
		教 育 学	学	1 単位	30時間			1	30						地 域・在宅看護概論Ⅱ (在宅看護の概要)	1 単位	30時間			1	30					
		行 動 科 学	学	1 単位	30時間	1	30								地 域・在宅看護概論Ⅲ (対象を取り巻く多職種連携)	1 単位	15時間			1	15					
		人 間 工 学	学	1 単位	30時間	1	30								地 域・在宅看護方法論Ⅰ (在宅療養者の日常生活援助)	1 単位	30時間			1	30					
		情 報 科 学	学	1 単位	30時間	1	30								地 域・在宅看護方法論Ⅱ (医療処置に伴う援助)	1 単位	30時間			1	30					
		論 理 的 思 考 の 基 礎	1 単位	15時間	1	15									地 域・在宅看護方法論Ⅲ (在宅で療養生活を送る難病の人の看護)	1 単位	15時間			1	15					
		社 会 学	1 単位	15時間	1	15									成 人 看 護 学 概 論	1 単位	30時間	1	30							
		文 化 人 類 学	1 単位	30時間	1	30									成 人 看 護 学 方 法 論 Ⅰ (急性期ケア)	1 単位	30時間			1	30					
		英 語 (看護英会話)	Ⅰ 1 単位	15時間	1	15									成 人 看 護 学 方 法 論 Ⅱ (周手術期ケア)	1 単位	30時間			1	30					
		英 語 (看護文献読解)	Ⅱ 1 単位	15時間			1	15							成 人 看 護 学 方 法 論 Ⅲ (セルフケア)	1 単位	30時間			1	30					
		ポ ル ト ガ ル 語	1 単位	30時間	1	30									成 人 看 護 学 方 法 論 Ⅳ (緩和ケア・がん看護)	1 単位	15時間			1	15					
		人 間 関 係 論 Ⅰ	1 単位	15時間	1	15									成 人 看 護 学 方 法 論 Ⅴ (成人看護技術)	1 単位	15時間			1	15					
		人 間 関 係 論 Ⅱ	1 単位	15時間			1	15							老 年 看 護 学 概 論	1 単位	30時間	1	30							
		健 康 科 学	1 単位	15時間	1	15									老 年 看 護 学 方 法 論 Ⅰ (高齢者の日常生活援助)	1 単位	30時間			1	30					
		小 計	14単位	315時間	11	255	3	60							老 年 看 護 学 方 法 論 Ⅱ (高齢者の健康障害時の看護)	1 単位	30時間			1	30					
		小 計													老 年 看 護 学 方 法 論 Ⅲ (認知機能障害のある高齢者の看護)	1 単位	15時間			1	15					
専門基礎分野	人体の構造と機能	形 態 機 能 学 Ⅰ (細胞と組織、骨筋肉系、消化器系、内分泌系の構造)	1 単位	30時間	1	30						小児看護学	小 児 看 護 学 概 論	1 単位	30時間			1	30							
		形 態 機 能 学 Ⅱ (呼吸器系、循環器系、神経系、感覚器系、泌尿器系、生殖器系の構造)	1 単位	30時間	1	30							小 児 看 護 学 方 法 論 Ⅰ (小児の健康障害)	1 単位	30時間			1	30							
		形 態 機 能 学 Ⅲ (呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系の機能)	1 単位	30時間	1	30							小 児 看 護 学 方 法 論 Ⅱ (小児の健康障害時の看護)	1 単位	30時間			1	30							
		形 態 機 能 学 Ⅳ (骨格と筋系、神経系、感覚器系、泌尿器系、生殖器系の機能)	1 単位	30時間	1	30							小 児 看 護 学 方 法 論 Ⅲ (小児看護技術)	1 単位	15時間			1	15							
		生 活 形 態 機 能 学 (生活行動から見た人体の構造と機能)	1 単位	15時間	1	15						母性看護学	母 性 看 護 学 概 論	1 単位	30時間			1	30							
		代 謝 学	1 単位	30時間	1	30							母 性 看 護 学 方 法 論 Ⅰ (妊娠期・分娩期の看護)	1 単位	30時間			1	30							
		栄 養 学	1 単位	30時間	1	30							母 性 看 護 学 方 法 論 Ⅱ (産褥期・新生児の看護)	1 単位	30時間			1	30							
		病 理 学 総 論	1 単位	15時間	1	15							母 性 看 護 学 方 法 論 Ⅲ (母性看護に必要な技術)	1 単位	15時間			1	15							
		疾病の成り立ちと回復の促進	微 生 物 学	1 単位	30時間	1	30						精神看護学	精 神 看 護 学 概 論	1 単位	30時間			1	30						
			疾 病 治 療 論 Ⅰ (呼吸器系障害、循環器系障害)	1 単位	30時間	1	30							精 神 看 護 学 方 法 論 Ⅰ (精神の健康障害と看護)	1 単位	30時間			1	30						
			疾 病 治 療 論 Ⅱ (消化器系障害、内分泌・代謝系障害)	1 単位	30時間	1	30							精 神 看 護 学 方 法 論 Ⅱ (精神に障害のある人の日常生活援助)	1 単位	30時間					1	30				
			疾 病 治 療 論 Ⅲ (脳神経系障害、運動機能系障害)	1 単位	30時間			1	30					精 神 看 護 学 方 法 論 Ⅲ (精神看護技術)	1 単位	15時間					1	15				
			疾 病 治 療 論 Ⅳ (血液・造血器系障害、腎泌尿器系障害、女性生殖系障害)	1 単位	30時間			1	30				看護の統合と実際	災 害 看 護 と 国 際 看 護	1 単位	30時間			1	30						
			疾 病 治 療 論 Ⅴ (麻酔及び手術と全身管理、リハビリテーション、放射線療法)	1 単位	15時間			1	15					看 護 管 理	1 単位	15時間							1	15		
			薬 理 学	1 単位	30時間	1	30							医 療 安 全	1 単位	30時間							1	30		
			精 神 保 健 論	1 単位	15時間			1	15					看 護 研 究	1 単位	30時間							1	30		
			健康支援と社会保障制度	医 療 概 論	1 単位	15時間			1	15				臨床実習	小 計	45単位	1125時間	14	360	25	630	6	135			
				社 会 福 祉 論	1 単位	30時間			1	30					基 礎 看 護 学 実 習 Ⅰ	1 単位	45時間	1	45							
				環 境 保 健 論 Ⅰ	1 単位	15時間						1	15		基 礎 看 護 学 実 習 Ⅱ	2 単位	90時間	2	90							
				環 境 保 健 論 Ⅱ	1 単位	15時間						1	15		地 域・在宅看護実習	3 単位	90時間							3	90	
		医 療 関 係 法 規		1 単位	15時間						1	15	成 人・老年看護学実習Ⅰ (急性期)		3 単位	90時間				3	90					
		看 護 関 係 法 規		1 単位	15時間						1	15	成 人・老年看護学実習Ⅱ		3 単位	90時間							3	90		
		小 計		22単位	525時間	12	330	6	135	4	60	成 人・老年看護学実習Ⅲ (セルフケア期)	3 単位		90時間				3	90						
看 護 学 概 論	1 単位	30時間		1	30						老 年 看 護 学 実 習 Ⅰ	3 単位	90時間					3	90							
専門看護学	基礎看護学	看 護 方 法 論 Ⅰ (安全・安楽)	1 単位	15時間	1	15						老 年 看 護 学 実 習 Ⅱ	3 単位	90時間							3	90				
		看 護 方 法 論 Ⅱ (コミュニケーション)	1 単位	15時間	1	15						小 児 看 護 学 実 習	3 単位	90時間							3	90				
		看 護 方 法 論 Ⅲ (生活環境の調整、活動、休息・睡眠)	1 単位	30時間	1	30						母 性 看 護 学 実 習	3 単位	90時間							3	90				
		看 護 方 法 論 Ⅳ (衣生活・清潔)	1 単位	30時間	1	30						精 神 看 護 学 実 習	3 単位	90時間							3	90				
		看 護 方 法 論 Ⅴ (フィジカルイグザミネーション)	1 単位	30時間	1	30						統 合 看 護 実 習	3 単位	90時間							3	90				
		看 護 方 法 論 Ⅵ (フィジカルアセスメント)	1 単位	15時間	1	15						小 計	33単位	1035時間	3	135	9	270	21	630						
		看 護 方 法 論 Ⅶ (食生活・排泄)	1 単位	30時間	1	30						合 計	114単位	3000時間	40	1080	43	1095	31	825						
		看 護 方 法 論 Ⅷ (看護過程、学習支援技術)	1 単位	30時間	1	30						試 験 時 間		81		37		34		10						
		看 護 方 法 論 Ⅸ (感染予防、診療・検査時の看護)	1 単位	30時間	1	30						特 別 教 育 活 動		172		76		55		41						
		看 護 方 法 論 Ⅹ (薬物療法時の看護)	1 単位	30時間	1	30						総 合 計		3235		1193		1184		876						
		臨 床 看 護 方 法 論	1 単位	15時間			1	15																		

科目内容及び進度表

科 目		単位	時間数	科 目 内 容	1 年次		2 年次		3 年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	哲 学	1	30	人間の存在や価値、人間の生死や倫理		—				
	教 育 学	1	30	人間の成長・発達における教育の意義や方法			—			
	行 動 科 学	1	30	人間の行動を成立させている要因や行動変容	—					
	人 間 工 学	1	30	看護技術の手法や機器の取り扱いに必要なとなる物理的な基礎知識	—	—				
	情 報 科 学	1	30	統計的な情報処理方法とメディアの利用方法 情報倫理、看護におけるICT活用方法	—					
	論 理 的 思 考 の 基 礎	1	15	論理的な理解能力・思考能力・表現能力	—	—				
	社 会 学	1	15	社会の成り立ちや構造、現代社会の特徴（個人・家族・地域）		—				
	文 化 人 類 学	1	30	人間社会・文化の普遍性と多様性	—					
	英 語 I	1	15	看護・医療に関する基本的な専門英語や英会話力	—					
	英 語 II	1	15	看護学に関する英語文献の読解				—		
	ポ ル ト ガ ル 語	1	30	基本的文法と基礎会話	—					
	人 間 関 係 論 I	1	15	人間関係を形成するうえでの対人関係やコミュニケーションの概念	—					
専門基礎分野	人 間 関 係 論 II	1	15	人間関係の基本となるコミュニケーション技術			—			
	健 康 科 学	1	15	健康・体力の保持増進に関する知識と具体的方法	—	—				
	人体の構造と機能	形 態 機 能 学 I	1	30	細胞と組織、骨筋肉系、消化器系、内分泌系の構造	—				
		形 態 機 能 学 II	1	30	呼吸器系、循環器系、神経系・感覚器系、腎泌尿器系、生殖器系の構造	—				
		形 態 機 能 学 III	1	30	呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系の機能	—				
		形 態 機 能 学 IV	1	30	骨格と筋系、神経系・感覚器系、腎泌尿器系の機能		—			
		生 活 形 態 機 能 学	1	15	生活行動からみた人体の構造と機能		—			
		代 謝 学	1	30	人体を構成している物質と代謝機能		—			
	疾病の成り立ちと回復の促進	栄 養 学	1	30	人間の生命維持、成長・発達における栄養の意義と健康障害時の栄養管理		—			
		病 理 学 総 論	1	15	病気の原因と発生のしくみ、病理学的変化や生体機能の変化	—				
		微 生 物 学	1	30	微生物の特徴と疾病の関連性、感染に対する生体の防衛機能	—				
		疾 病 治 療 論 I	1	30	呼吸器系障害及び循環器系障害による生体機能の変化と検査、治療		—			
		疾 病 治 療 論 II	1	30	消化器系障害及び内分泌・代謝系障害による生体機能の変化と検査・治療		—			
		疾 病 治 療 論 III	1	30	脳神経系障害及び運動機能障害による生体機能の変化と検査・治療			—		
	健康支援と社会保障制度	疾 病 治 療 論 IV	1	30	血液・造血器系障害及び腎泌尿器系障害、女性生殖器系障害による生体機能の変化と検査・治療			—		
		疾 病 治 療 論 V	1	15	麻酔及び手術が生体に及ぼす影響 リハビリテーションの概念とリハビリテーションの知識と技術 放射線治療の特徴と生体機能の変化			—		
		薬 理 学	1	30	薬物の生体に及ぼす影響、薬物の管理方法や法規上の規制等		—			
		精 神 保 健 論	1	15	こころの健康やこころの発達			—		
		医 療 概 論	1	15	医療の倫理と患者の人権、医療政策、医療と経済			—		
		社 会 福 祉 論	1	30	社会福祉の基本理念と概念、社会福祉制度及び活用方法			—		
専門分野	基礎看護学	環 境 保 健 論 I	1	15	環境が人間の健康に及ぼす影響、健康の保持・増進と疾病の予防				—	—
		環 境 保 健 論 II	1	15	地域保健活動、産業保健・学校保健における看護職の役割と機能					—
		医 療 関 係 法 規	1	15	保健医療制度に関する法律					—
		看 護 関 係 法 規	1	15	保健師助産師看護師法の理解、看護の役割及び法的責任					—
		看 護 学 概 論	1	30	看護の実践に必要な基礎的理論、看護の主要概念、看護倫理、看護の役割、看護の歴史	—				
		看 護 方 法 論 I	1	15	安全・安楽	—				
		看 護 方 法 論 II	1	15	コミュニケーション	—				
		看 護 方 法 論 III	1	30	生活環境の調整、活動、休息・睡眠	—				
		看 護 方 法 論 IV	1	30	衣生活・清潔	—	—			
		看 護 方 法 論 V	1	30	フィジカルイグザミネーション	—	—			
		看 護 方 法 論 VI	1	15	フィジカルアセスメント		—			
		看 護 方 法 論 VII	1	30	食生活・排泄		—			
		看 護 方 法 論 VIII	1	30	看護過程、学習支援技術					
		看 護 方 法 論 IX	1	30	感染予防、診察・検査時の看護					
		看 護 方 法 論 X	1	30	薬物療法時の看護					
		臨 床 看 護 方 法 論	1	15	臨床看護の概念、症状・徴候の臨床判断の基礎的能力			—		

科 目		単位	時間数	科 目 内 容	1 年次		2 年次		3 年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15	人々の暮らしを支える					
		地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30	在宅看護の概要					
		地域・在宅看護概論Ⅲ	1	15	対象を取り巻く多職種連携					
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30	在宅療養者の日常生活援助					
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30	医療処置に伴う援助					
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	15	在宅で療養生活を送る難病の人の看護			—		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	成人期の特徴、成人看護の目的、機能と役割					
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30	急性期ケア（生命危機的状態にある患者）					
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30	周手術期ケア（術前・術中・術後の患者の看護）					
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30	セルフケア（慢性期の患者の看護）					
		成人看護学方法論Ⅳ	1	15	緩和ケア・がん看護					
		成人看護学方法論Ⅴ	1	15	成人看護技術、心肺蘇生法					
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	老年期にある対象の特徴、老年看護の基本と役割					
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30	高齢者の日常生活の援助					
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30	高齢者の健康障害時の援助					
		老年看護学方法論Ⅲ	1	15	認知機能障害のある高齢者の看護			—		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	小児の理解、小児看護の目的・機能・役割					
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30	小児の健康障害					
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30	小児の健康障害時の看護					
		小児看護学方法論Ⅲ	1	15	小児看護技術			—		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	母性の概念、母性看護の目的・機能・役割					
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30	妊娠期・分娩期の看護					
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30	産褥期・新生児の看護					
		母性看護学方法論Ⅲ	1	15	母性看護に必要な技術					
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	精神看護の概念、精神保健医療の変遷と法制度					
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30	精神の健康障害と看護					
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30	精神に障害のある人のリカバリーに向けた援助					
		精神看護学方法論Ⅲ	1	15	精神看護技術					
	看護の統合と実践	災害看護と国際看護	1	30	災害時における医療・看護と災害時に必要な技術 グローバルな視点からの看護の諸問題、拡大する看護師の役割			—		
		看護管理	1	15	看護マネジメントや看護サービスシステム					
		医療安全	1	30	看護・医療事故の実際とメカニズム、事故防止の基礎知識					
		看護研究	1	30	看護研究の基礎と実践					
		エンド・オブ・ライフ・ケアと看護	1	15	エンド・オブ・ライフ・ケアの基本的な考え方と看護師の役割					
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	病院の構造と機能、対象の生活環境や看護の機能と役割 日常生活援助を中心とした看護の実際	—				
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	基本的欲求に基づく日常生活援助		—			
		地域・在宅看護実習	3	90	在宅療養者とその家族に対する看護			.....		
		成人・老年看護学実習Ⅰ	3	90	臨床推論を用いた患者の看護			.....		
		成人・老年看護学実習Ⅱ	3	90	周手術期にある患者の看護			.....		
		成人・老年看護学実習Ⅲ	3	90	合併症・二次障害予防のための自己管理が必要な患者の看護			.....		
		老年看護学実習Ⅰ	3	90	老年期の対象の理解、生活の質を維持するための看護			—		
		老年看護学実習Ⅱ	3	90	高齢者の健康障害に応じた看護			.....		
		小児看護学実習	3	90	健康障害のある小児の理解と看護			.....		
		母性看護学実習	3	90	妊娠各期の理解、産婦・褥婦と新生児の看護			.....		
		精神看護学実習	3	90	精神障害のある対象の理解と看護				—	
		統合看護実習	3	90	看護管理の実際、チームの一員としての複数患者の看護					—

\*科目進度は3クラス共通。但し、臨地実習は交代で実施する期間がある。



# 看護技術の卒業時到達基準

No.1

技術の種類		到達基準		卒業時における到達度
1. 環境調整技術	病室内の環境調整	1	患者にとって快適な病床環境をつくることができる。	1
	病床整備	2	臥床患者のシーツ交換ができる。	1
2. 食事の援助技術	食事介助	3	自力での経口摂取が困難な患者の食事介助ができる。	1
	食事指導	4	セルフケアが必要な患者や家族に指導できる	2
	経管栄養法	5	モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる。	3
	流動物の注入	6	流動物の注入ができる。	2
3. 排泄の援助技術	尿器・便器・ポータブルトイレによる排泄の介助	7	尿器による介助ができる。	1
		8	便器による介助ができる。	1
		9	ポータブルトイレによる排泄援助ができる。	1
	おむつ交換	10	新生児・乳児のおむつ交換ができる。	1
		11	大人のおむつ交換ができる。	1
	導尿	12	モデル人形に導尿ができる。	★
		13	膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル確認、感染予防の管理ができる。	2
	浣腸	14	モデル人形にグリセリン浣腸ができる。	★
	摘便	15	モデル人形に摘便ができる。	★
	ストーマ管理	16	ストーマ管理ができる。	3
4. 活動・休息の援助技術	体位変換	17	患者の状態に合わせた体位変換ができる。	2
	歩行介助（器具使用を含む）	18	患者の状態に合わせた歩行介助ができる。	2
	移乗移送	19	患者の状態に合わせた車椅子への移乗ができる。	2
		20	患者を車椅子で移送できる。	1
		21	ベッドからストレッチャーへ移乗できる。	2
		22	ストレッチャー移送ができる。	2
	良肢位の保持	23	良肢位の保持ができる。	1
	自動・他動運動訓練	24	自動・他動運動の訓練ができる。	1
5. 清潔・衣生活の援助技術	入浴・シャワー浴介助	25	入浴・シャワー浴の介助ができる。	2
	新生児の沐浴	26	新生児の沐浴ができる。	2
	全身清拭	27	臥床患者の全身清拭ができる。	1
	部分浴	28	患者の状態に合わせた手浴・足浴ができる。	1
	陰部洗浄	29	臥床患者の陰部洗浄ができる。	2
	洗髪	30	臥床患者の洗髪ができる。	1
	口腔ケア	31	患者の状態に合わせた口腔ケアができる。	2
	寝衣交換	32	臥床患者の寝衣交換ができる。	2
		33	チューブ類挿入中の患者の寝衣交換ができる。	2
	整容	34	整容ができる。	1
6. 呼吸・循環を整える技術	酸素吸入	35	鼻カニューレ、フェイスマスクによる酸素吸入ができる。	1
		36	校内実習で酸素ボンベの取扱いができる。	★
	一時的吸引	37	モデル人形で口腔、鼻腔内吸引ができる。	★
		38	モデル人形で気管内吸引ができる。	★
	体位ドレナージ	39	体位ドレナージができる。	3
	胸腔ドレナージの管理	40	低圧持続吸引の管理ができる。	2
	気管内加湿	41	ネブライザーを用いた気管内加湿ができる。	2
	電法	42	温電法ができる。	1
		43	冷電法ができる。	1
7. 創傷管理技術	褥瘡予防	44	褥瘡の予防ケアができる。	2
	包帯法	45	巻軸包帯、三角巾による包帯法が実施できる。	★
	創洗浄、創保護、ドレーン類の挿入部の処置	46	創洗浄、創保護、ドレーン類の挿入部の処置ができる	2

レベル1：教員や看護師の助言・指導により学生が単独で実施できるもの

レベル2：教員や看護師の指導・監視のもとで学生が実施できるもの

レベル3：学生は原則として看護師・医師の実施を見学する

★：校内実習でモデルまたは学生間で実施するもの

□：自信がもてるまで実施する項目

技術の種類			到達基準		卒業時における到達度
8. 与薬の技術	経口与薬（内服・口腔内与薬）		47	校内実習で誤薬防止の手順に沿った与薬ができる。	★
	経皮、外用薬の与薬		48	経皮、外用薬の与薬ができる。	1
	吸入		49	薬剤吸入ができる。	★
	直腸内与薬		50	モデル人形に直腸内与薬ができる。	★
	注射	皮下注射、筋肉内注射	51	モデル人形で皮下注射、筋肉内注射ができる。	★
		点滴静脈内注射	52	モデル人形に点滴静脈内注射ができる。	★
			53	校内実習で点滴静脈内注射の管理ができる。	★
		輸液ポンプの基本操作		54	校内実習で輸液ポンプの基本操作ができる。
輸血管理		55	輸血の管理ができる。	3	
9. 救急救命 処置の技術	一次救命処置 BLS(basic life support)		56	意識の確認ができる。	1
			57	モデル人形で気管確保が正しくできる。	★
			58	モデル人形で人工呼吸が正しくできる。	★
			59	モデル人形で閉鎖式心臓マッサージが正しくできる。	★
			60	モデル人形にAEDを用いて正しく実施できる。	★
	止血法		61	止血法の実施ができる。	★
10. 症状・生体 機能管理技術	バイタルサインの測定		62	バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・経皮的酸素飽和度・血圧・意識レベル）の測定ができる。	1
	対光反射		63	対光反射が確認できる。	1
	視診		64	視診ができる。	1
	聴診	呼吸音	65	呼吸音の聴取ができる。	1
		心音	66	心音の聴取ができる。	1
			67	胎児心音の聴取ができる。	2
		腸蠕動音		68	腸蠕動音の聴取ができる。
	触診		69	触診ができる。	1
	打診		70	打診ができる。	1
	心電図モニターの電極の装着		71	心電図モニターの電極が装着できる。	1
	身体計測		72	身体計測（身長・体重・腹囲）ができる。	1
			73	乳児の身体計測（身長・体重・頭囲・胸囲）ができる。	2
	子宮底長の測定		74	褥婦の子宮底長の測定ができる。	1
	乳汁分泌量の測定		75	乳汁分泌量の測定ができる。	1
	検体の 採取と 取り扱い	採尿	76	モデル人形で乳児の採尿ができる。	★
			77	尿検体の正しい取り扱いができる。	2
		採血	78	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる。	★
			79	簡易血糖測定ができる。	2
	11. 感染予防 技術	スタンダードプリコーション		80	スタンダードプリコーションに基づく手洗いが実施できる。
81				必要な防護用具（手袋・ゴーグル・ガウン等）の装着ができる。	2
感染性廃棄物の取り扱い		82	使用した器具の感染防止の取り扱いができる。	2	
無菌操作		83	無菌操作が確実にできる。	2	
誤刺防止		84	針刺し事故防止の対策が実施できる。	2	
12. 安全管理 技術		安全な療養環境の整備		85	転倒・転落・外傷の予防ができる。
	放射線曝露防止		86	放射線曝露の防止のための行動がとれる。	2
	薬剤曝露の防止		87	薬剤曝露の防止のための行動がとれる。	3
	チューブ類の管理		88	チューブ類を安全に管理できる。	2
	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告		89	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告ができる	1
	誤認防止策の実施		90	誤認防止策の実施ができる。	1
13. 安楽確保の 技術	安楽な体位		91	安楽な体位の保持ができる。	1
	安楽の促進・苦痛の緩和		92	安楽の促進・苦痛の緩和のケアができる。	1
	精神的安寧		93	精神的安寧を保つためのケアができる。	1

レベル1：教員や看護師の助言・指導により学生が単独で実施できるもの

レベル2：教員や看護師の指導・監視のもとで学生が実施できるもの

レベル3：学生は原則として看護師・医師の実施を見学する

★：校内実習でモデルまたは学生間で実施するもの

□：自信がもてるまで実施する項目

## 基礎分野

科学的思考及び人間と人間の生活、社会について、専門基礎分野、専門分野の基礎となる知識を学ぶ。		
1 4 単位 3 1 5 時間		
科 目	単位	時間
哲 学	1 単位	3 0 時間
教 育 学	1 単位	3 0 時間
行 動 科 学	1 単位	3 0 時間
人 間 工 学	1 単位	3 0 時間
情 報 科 学	1 単位	3 0 時間
論 理 的 思 考 の 基 礎	1 単位	1 5 時間
社 会 学	1 単位	1 5 時間
文 化 人 類 学	1 単位	3 0 時間
( 英 語 会 話 I 看 護 英 語 )	1 単位	1 5 時間
( 英 語 文 献 読 解 II 看 護 文 献 読 解 )	1 単位	1 5 時間
ポ ル ト ガ ル 語	1 単位	3 0 時間
人 間 関 係 論 I	1 単位	1 5 時間
人 間 関 係 論 II	1 単位	1 5 時間
健 康 科 学	1 単位	1 5 時間

哲 学	講師：	1 年全期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 人間の存在や価値、人間の生死や倫理について学び、自分自身の価値観・人生観を深め、職業倫理の基盤となる考え方を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 人間の存在 (1) 生きる意味 (2) 存在と価値人間の独自性 ①人間の欲求 ②人間の自律 ③人間の成長 (3) 「わたし」と「あなた」  2 人間の倫理 (1) 倫理とは (2) 法と倫理 (3) 人間の尊厳 (4) 人権と規範 ①責任 ②義務 ③自由  3 生と死 (1) 時間と生 (2) スピリチュアリティ (3) 生命とその価値 (4) 死の克服			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 資料			

教 育 学	講師：	2 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 看護の教育技術に活かせるように、人間の成長・発達における教育の意義や方法を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 人間の成長と学習の意義 (1) 学習と成長・発達 (2) 人間形成と環境  2 教育の目的  3 学習理論  4 教育の方法 (1) 教育者と学習者の相互性 (2) 学習指導の基本 (3) 指導の形態・方法・評価等  5 家庭教育  6 生活教育  7 社会教育			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 資料			

行動科学	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 人間の行動を成立させている要因や行動変容について、科学的・心理学的に理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 心の発達と心の危機  2 認知 （1）感覚と知覚、感情 （2）学習と記憶  3 行動 （1）欲求 （2）動機付け （3）葛藤とフラストレーション  4 パーソナリティ （1）知能 （2）性格 （3）自己意識  5 集団・社会における心理  6 現代社会固有のストレス			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー I 北大路書房			

人間工学	講師：	1 年後期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 科学的根拠に基づく看護技術の手技や機器の取り扱いに必要な物理的な基礎知識を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 人間工学とは  2 身体と身体ケアに関する物理学 （1）ボディメカニクスの物理 ①圧力、摩擦力、テコ、力のモーメント ②重心、姿勢、動作 ③ボディメカニクスの原理 （2）浮力 （3）体温  3 検査・治療・処置に関する物理学 （1）血圧測定 of 原理 （2）ネブライザーの原理 （3）パルスオキシメーターの原理 （4）酸素ポンプの原理 （5）低圧持続吸引装置の原理 （6）輸液ポンプの原理 （7）点滴静脈注射の原理 （8）真空採血管の原理			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 完全版 ベッドサイドを科学する Gakken			

情報科学	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<p><b>授業の目標</b></p> <p>看護に応用するための基礎的知識として、統計的な情報処理方法とメディアの利用方法の習得と、情報を取り扱ううえでの倫理的側面を理解する。また看護における I C T 活用方法を理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <p>1 社会と情報</p> <p>（1）情報社会とは</p> <p>（2）情報通信技術（I C T）と活用</p> <p>①インターネットの仕組みと情報収集・活用</p> <p>②個人による情報発信</p> <p>③情報リテラシー</p> <p>（3）情報社会で起こりうる問題</p> <p>・情報倫理・個人情報保護・著作権</p> <p>2 統計の概念と方法</p> <p>（1）Excel の基礎と活用</p> <p>（2）統計学の基礎知識</p> <p>①データの種類と単純集計</p> <p>②正規分布の特徴</p> <p>③一般的な検定の流れ</p> <p>3 様々なグラフ作成の方法</p> <p>4 文献検索</p>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p>コンピュータ操作</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>筆記試験 実技試験 レポート等</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院</p>			



論理的思考の基礎	講師：	1 年全期	1 単位（15 時間）
<p><b>授業の目標</b></p> <p>論理的な思考の基本的枠組みを理解し、論理的な理解能力・思考能力・表現能力を身につける。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 論理的思考の意味と必要性</li>   <li>2 論理的に考える             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）三段論法</li> <li>（2）帰納的論証と演繹的論証</li> </ol> </li>   <li>3 論理的に文章を読む             <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠と論証</li> </ul> </li>   <li>4 論理的に話し合う             <ul style="list-style-type: none"> <li>・議論の構成要素と技法</li> </ul> </li>   <li>5 論理的な文章を書く             <ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文の構造と書き方</li> </ul> </li> </ol>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義 演習</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>筆記試験 レポート等</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル 医学書院</p>			

社 会 学	講師：	1 年後期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 人間を社会的存在として理解するために、社会の成り立ちや構造、現代社会の特徴や個人・家族・地域の視点で生活と社会との関連を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 「社会」の意味と成り立ち  2 現代の生活と社会 (1) 現代世界と社会 (2) 民族と共存 (3) 社会と文化  3 現代の生活と個人 (1) 生活構造論 (2) 社会生活と生活習慣やライフスタイル  4 地域社会 (1) 地域社会の歴史的変遷 (2) 集団の機能と変化 (3) 地域における人間関係 ・コミュニティ形成と課題  5 家族と社会 (1) 家族の機能 (2) 家族の様々な形 (3) 日本の家族の変化 (4) ライフステージと家族の課題  6 教育と社会  7 医療と社会			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 資料			

文化人類学	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 異文化を学ぶことで自分自身が生活する文化、社会を客観的に捉え、人間社会・文化の普遍性と多様性を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 人間と文化  2 文化の進化と伝播  3 経済の技術・生活の技術 ・時代に伴う経済・社会の変遷  4 異文化と自文化 （1）人種と民族 （2）婚姻と家族 （3）性差 （4）宗教と儀礼 （5）誕生と死  5 現代生活文化 （1）近現代の生活スタイルの移り変わり （2）ライフスタイルと生活様式 （3）人類の進化と課題			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院			

英 語 I  (看護英会話)	講師：	1 年前期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 医療現場で外国人と意思の疎通を図るための、看護・医療に関する基本的な専門英語や英会話力を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 ベッドサイドにおける基本的英会話 （１）患者への自己紹介 （２）受付と病院案内 （３）説明、依頼 （４）生活習慣の情報収集 （５）看護用具  2 看護・医療の専門用語の導入 （１）問診場面 ①症状を尋ねる ②身体の部位の名称 （２）バイタルサイン測定のシーンにおける表現 （３）食事介助等の援助シーンにおける表現 （４）処置のシーンにおける表現 （５）患者を励ます、ねぎらう等の表現			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 実技試験 レポート等			
<b>テキスト</b> Health Talk : English for Hands-on Nursing ピアソン・エデュケーション			

英 語 II  (看護文献読解)	講師：	2 年後期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 看護・医療に関する英語文献で語彙を高め、読解する基礎を身につける。			
<b>授業の内容</b> 1 英語長文の文法と構造分析の基礎 （1）医療用語、看護学用語とその意味 （2）基本的な文法と構文の復習  2 医療関連の時事的話題の読解 （1）文献の読解 医療・健康の話題をテーマにしたケーススタディに触れる ① Allergy （アレルギー） ② Respiratory System （呼吸のしくみ） ③ Gastrointestinal System （消化管のしくみ） ④ Urinary System （腎臓のしくみ） ⑤ その他の症状 （2）主要な医療単語や特有な用語とフレーズ ① 疾患の一般的な分類と名称 ② 症状に関連する英単語やフレーズ など			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 学生のための カレントメディカルイングリッシュ 医学書院			

ポルトガル語	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 基礎からポルトガル語のアルファベットや文法を学ぶことにより、日本語や英語と異なる文法体系と基礎会話について理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 アルファベットの読み方 2 ポルトガル語の特徴と発音 3 特有のイントネーション 4 ポルトガル語の基本的な文法 5 ポルトガル語での定型的挨拶、自己紹介 6 ポルトガル語での日常会話とよく使う表現			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> ブラジルを発見 ブラジル・ポルトガル語入門 同学社			

人間関係論 I	講師：	1 年前期	1 単位（15 時間）
<p><b>授業の目標</b></p> <p>看護師として必要な人間関係を形成するうえでの対人関係やコミュニケーションの概念を理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <div> <div> <p>1 人間関係論とは</p> <p>（1）人間関係の中の自己と他者</p> <p>（2）自己認知と対人認知</p> </div> <div> <p>2 対人関係の役割</p> <p>（1）対人関係の成立</p> <p>（2）対人関係に影響を及ぼす要因</p> <p>（3）対人関係の維持と崩壊</p> <p>（4）対人葛藤と対処</p> </div> <div> <p>3 コミュニケーションの概念</p> <p>（1）コミュニケーションとは</p> <p>①セルフコミュニケーション</p> <p>②対人コミュニケーション</p> <p>（2）コミュニケーションの手段</p> <p>①言語的コミュニケーション</p> <p>②非言語的コミュニケーション</p> <p>（3）コミュニケーションの障害</p> <p>（4）ICTの発達とコミュニケーション</p> </div> <div> <p>4 様々な場所での人間関係</p> <p>（1）家族</p> <p>（2）友人関係</p> <p>（3）男女関係</p> <p>（4）職場の人間関係</p> <p>（5）患者との人間関係</p> <p>（6）地域における人間関係</p> </div> </div>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>筆記試験 レポート等</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院</p>			

人間関係論Ⅱ	講師：	2 年前期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 人間関係の形成、維持、発展に必要な理論を理解し、人間関係の基本となるコミュニケーション技術を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 カウンセリング理論と技法 （1）カウンセリング （2）心理療法の理論とスキル  2 認知行動療法の理論と技法  3 コーチング理論とスキル  4 アサーティブなコミュニケーション			
<b>授業方法</b> 講義 演習 カウンセリングの技法 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院			



健康科学	講師：	1 年全期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 健康・体力の保持増進に関する知識を学ぶ。また、運動を通して、自己の心身の健康の維持・向上を図る。			
<b>授業の内容</b> 講義 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会と健康</li> <li>2 健康・体力づくりと運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の種類と生体への影響</li> <li>・有酸素運動と無酸素運動</li> </ul> </li> <li>3 運動療法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション療法</li> </ul> </li> </ol> 演習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康ストレッチ体操</li> <li>2 体幹バランス強化運動</li> <li>3 ヨガ</li> <li>4 ダイエットエクササイズ 等</li> </ol>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 実技試験 レポート等			
<b>テキスト</b> なし			

## 専門基礎分野

人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復への促進及び健康支援と社会保障制度について理解し、専門分野の基礎となる知識を学ぶ。			
2 2 単位    5 2 5 時間			
科 目		単位	時間
人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ (細胞と組織、骨筋肉系、消化器系 内分泌系の構造)	1 単位	3 0 時間
	形態機能学Ⅱ (呼吸器系、循環器系、神経系・感覚器系 腎泌尿器系、生殖器系の構造)	1 単位	3 0 時間
	形態機能学Ⅲ (呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系の機能)	1 単位	3 0 時間
	形態機能学Ⅳ (骨格と筋系、神経系・感覚器系、腎泌尿器系の機能)	1 単位	3 0 時間
	生活形態機能学 (生活行動からみた人体の構造と機能)	1 単位	1 5 時間
	代 謝 学	1 単位	3 0 時間
	栄 養 学	1 単位	3 0 時間
疾病の成り立ちと回復の促進	病 理 学 総 論	1 単位	1 5 時間
	微 生 物 学	1 単位	3 0 時間
	疾 病 治 療 論Ⅰ (呼吸器系障害、循環器系障害)	1 単位	3 0 時間
	疾 病 治 療 論Ⅱ (消化器系障害、内分泌・代謝系障害)	1 単位	3 0 時間
	疾 病 治 療 論Ⅲ (脳神経系障害、運動機能系障害)	1 単位	3 0 時間
	疾 病 治 療 論Ⅳ (血液・造血管系障害、腎泌尿器系障害、女性生殖器系障害)	1 単位	3 0 時間
	疾 病 治 療 論Ⅴ (麻酔及び手術と全身管理、リハビリテーション、放射線療法)	1 単位	1 5 時間
	薬 理 学	1 単位	3 0 時間
	精 神 保 健 論	1 単位	1 5 時間
健康支援と社会保障制度	医 療 概 論	1 単位	1 5 時間
	社 会 福 祉 論	1 単位	3 0 時間
	環 境 保 健 論Ⅰ	1 単位	1 5 時間
	環 境 保 健 論Ⅱ	1 単位	1 5 時間
	医 療 関 係 法 規	1 単位	1 5 時間
	看 護 関 係 法 規	1 単位	1 5 時間

<p>形態機能学 I</p> <p>（細胞と組織、骨筋肉系、消化器系、内分泌系の構造）</p>	<p>講師：</p>	<p>1 年前期</p>	<p>1 単位（30 時間）</p>
<p><b>授業の目標</b></p> <p>人体の正常な発生、骨格と筋、消化器系、内分泌系の構造について理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人体の構造を理解する意味 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）解剖学とは</li> <li>（2）解剖学の歴史</li> </ol> </li> <li>2 人体を形づくるもの <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）細胞</li> <li>（2）組織と器官</li> </ol> </li> <li>3 姿勢と活動に関わる骨格と筋 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）骨格とは</li> <li>（2）骨の連結</li> <li>（3）骨格筋の構造</li> <li>（4）骨格と筋（体幹・上肢・下肢）</li> <li>（5）不随意筋（心筋・平滑筋）</li> </ol> </li> <li>4 栄養と消化に関わる消化器系 <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔から肛門に至る消化器の構造</li> </ul> </li> <li>5 恒常性に関わる内分泌系 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホルモンを分泌する内分泌器官の構造</li> </ul> </li> <li>6 人体の発生 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受精卵から人体が形成されるまでの過程</li> </ul> </li> </ol>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>筆記試験</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学 医学書院</p>			

<p>形態機能学Ⅱ</p> <p>（呼吸器系、循環器系、神経系・感覚器系、腎泌尿器系、生殖器系の構造）</p>	<p>講師：</p>	<p>1 年前期</p>	<p>1 単位（30 時間）</p>
<p><b>授業の目標</b></p> <p>呼吸器系、循環器系、神経系・感覚器系、腎泌尿器系、生殖器系の構造について理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 換気に関わる呼吸器系 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）呼吸器系の構成</li> <li>（2）上気道、気管・気管支、肺、胸膜の構造</li> </ol> </li> <li>2 物質の流通に関わる循環器系 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）心臓と末梢循環系の構造、胎児循環</li> <li>（2）血液とリンパ管</li> </ol> </li> <li>3 恒常性に関わる神経系 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）脳と脊髄の構造</li> <li>（2）脳神経と脊髄神経</li> <li>（3）自律神経系</li> </ol> </li> <li>4 情報伝達に関わる感覚器系 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）感覚の種類と感覚器</li> <li>（2）眼、耳、皮膚、舌の構造</li> </ol> </li> <li>5 尿の生成に関わる腎泌尿器系 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）腎臓の構造</li> <li>（2）排尿路（膀胱、尿管、尿道）の構造</li> </ol> </li> <li>6 次の世代を生み出す生殖器系 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）男性生殖器の構造</li> <li>（2）女性生殖器の構造</li> </ol> </li> </ol>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>筆記試験</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学 医学書院</p>			

<p>形態機能学Ⅲ</p> <p>(呼吸器系、循環器系、 消化器系、内分泌系の機能)</p>	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<p><b>授業の目標</b></p> <p>人体及び呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系の機能を理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <div> <div> <p>1 生命活動を営むための細胞と調節機能</p> <p>(1) 細胞の機能</p> <p>(2) 生命維持システムと運動・調節システム</p> <p>(3) ホメオスタシス</p> </div> <div> <p>2 生命を維持するための血液と免疫</p> <p>(1) 血液の働き</p> <p>(2) 特異的防御機能・非特異的防御機能（免疫）</p> <p>(3) 血液の凝固</p> </div> <div> <p>3 呼吸をする</p> <p>(1) 内呼吸と外呼吸</p> <p>(2) 呼吸運動と呼吸気量</p> <p>(3) ガス交換</p> </div> <div> <p>4 物質の流通をつかさどる循環</p> <p>(1) 心臓の拍出機能</p> <p>(2) 血液の循環とその調節</p> </div> <div> <p>5 栄養を届ける消化と吸収</p> <p>(1) 胃・小腸・大腸の機能</p> <p>(2) 栄養素の消化と吸収</p> <p>(3) 肝臓の機能</p> </div> <div> <p>6 恒常性を維持する内分泌</p> <p>(1) 自律神経による調節</p> <p>(2) 内分泌とホルモン</p> <p>(3) ホルモンの作用と分泌の調節</p> </div> </div>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>筆記試験</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学 医学書院</p>			

<p>形態機能学Ⅳ</p> <p>(骨格と筋系、神経系・感覚器系、腎泌尿器系の機能)</p>	<p>講師：</p>	<p>1 年後期</p>	<p>1 単位（30 時間）</p>
<p><b>授業の目標</b></p> <p>骨格と筋系、神経系・感覚器系、腎泌尿器系の機能を理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 姿勢と活動をつかさどる骨格と筋系 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 筋の収縮</li> <li>(2) 支持と運動（体幹・上肢・下肢・頭頸部）</li> </ol> </li> <li>2 恒常性を維持する神経系・感覚器系 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 脳神経と脊髄神経の機能</li> <li>(2) 脳の高次機能</li> <li>(3) 運動機能と下行伝導路</li> <li>(4) 感覚機能と上行伝導路</li> <li>(5) 視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚</li> </ol> </li> <li>3 尿を生成する腎泌尿器系と体液調節 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 尿生成のメカニズム</li> <li>(2) 体液の調節</li> </ol> </li> <li>4 恒常性を維持する体温とその調節</li> </ol>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>筆記試験</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学 医学書院</p>			

生活形態機能学 〔生活行動からみた人体の 構造と機能〕	講師：	1 年後期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 人体の構造と機能の知識を生活行動「食べる」にあてはめ、どのような構造と機能を使って生活を営んでいるのかを看護に結びつけて理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 人間にとって「食べる」とは  2 「食べる」を構成する身体の構造と機能 （1）食欲を感じる （2）食物を口に入れる （3）咀嚼し味わう （4）飲み込む （5）消化・吸収し必要なものをつくる材料にする  3 生活行動「食べる」に必要なアセスメントの視点 （1）栄養状態のアセスメント （2）摂食・嚥下機能のアセスメント （3）日常生活への影響  4 「食べる」に障害のある患者の機能変化 （1）日常生活行動の食べるとの違い （2）使わない機能 （3）機能を使わないことの影響			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学 医学書院 看護 形態機能学 日本看護協会出版会			

代 謝 学	講師：	1 年後期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 人体を構成している物質と代謝機能を理解し、日常生活や健康障害との関連を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 人体の構成成分  2 酵素と補酵素・ビタミン  3 糖質代謝  4 脂質代謝  5 タンパク質代謝  6 生体エネルギーの産生  7 核酸代謝と遺伝子  8 遺伝情報の発現とタンパク質合成  9 ホルモンと代謝調節  10 血液と免疫  11 電解質と尿  12 がん			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（2）生化学 医学書院			



栄 養 学	講師：	1 年後期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 人間の生命維持、成長・発達における栄養の意義と健康障害時の栄養管理を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 各栄養素の栄養的意義  2 エネルギー代謝  3 食品構成と各種食品の特徴  4 栄養状態の評価・判定と望ましい食生活  5 食べ方と健康  6 ライフステージと栄養  7 健康障害と栄養 （1）消化器障害 （2）循環器障害 （3）糖代謝障害 （4）肝機能障害 （5）腎機能障害 （6）栄養サポートチーム（NST）  8 食事療法の実際 （1）糖尿病食 （2）腎臓食 （3）肝臓病食 （4）高齢者食			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（3）栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院 食品解説つき 八訂準拠 新ビジュアル食品成分表 大修館書店			

病理学総論	講師：	1 年前期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 病気の原因と発生のしくみ、その結果、生体に生ずる病理学的変化や生体機能の変化を理解する。			
<b>授業の内容</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 病気の原因</li> <li>2 退行性変化と進行性変化</li> <li>3 先天異常</li> <li>4 代謝障害</li> <li>5 循環障害</li> <li>6 炎症と免疫、膠原病</li> <li>7 感染症</li> <li>8 腫瘍</li> </ol>			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進（1）病理学 <div>医学書院</div>			

微生物学	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 微生物の特徴と疾病との関連性について学び、感染に対する生体の防御機能を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 微生物と微生物学  2 感染と防御機能 （1）感染と感染症 （2）生体防御機能 ①自然免疫 ②獲得免疫（液性免疫、細胞性免疫） ③粘膜免疫 （3）感染源・感染経路 （4）消毒と滅菌 （5）感染症の診断と治療 （6）感染症の現状と対策 ①院内感染 ②日和見感染 ③感染症に関する法律 （7）ワクチンによる感染症予防  3 おもな病原微生物と感染症 （1）細菌感染症 （2）真菌感染症 （3）原虫感染症 （4）ウイルス感染症			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進（4）微生物学 医学書院 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア			

疾病治療論Ⅰ 【呼吸器系障害、循環器系障害】	講師：	1年後期	1単位（30時間）
<b>授業の目標</b> 呼吸器系障害及び循環器系障害により生じる生体機能の変化とその検査・治療を理解する。			
<b>授業の内容</b> 呼吸器系障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>疾患 感染症（肺結核、肺炎、インフルエンザ）、呼吸不全、肺腫瘍（がん、中皮腫） 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、自然気胸、肺梗塞、肺塞栓症</li> <li>症状 咳嗽、喀痰、咯血、呼吸困難、胸痛、チアノーゼ、喘鳴</li> <li>検査 画像診断（胸部X－P・CT）、気管支造影、気管支鏡、生検、胸水検査（胸腔穿刺）、呼吸機能検査、動脈血ガス分析、喀痰検査（細胞診、細菌）</li> <li>治療 薬物療法、呼吸理学療法、手術療法、安静療法、胸腔ドレナージ、吸入療法、酸素療法・人工呼吸法</li> </ol> 循環器系障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>疾患 高血圧、不整脈、心不全、心筋梗塞、狭心症、弁膜症、心内膜炎、心筋症 大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、静脈瘤</li> <li>症状 動悸、胸痛、呼吸困難、浮腫、失神、四肢の疼痛、チアノーゼ、ショック</li> <li>検査 心電図（標準12誘導・ホルター・負荷心電図）、胸部X－P、心エコー図 心臓カテーテル法、血行動態モニタリング、動脈血ガス分析</li> <li>治療 薬物療法、安静療法、食事療法、心臓カテーテル治療（PCI、カテーテルアブレーション）、ペースメーカー治療、外科的治療（冠動脈バイパス術、弁置換術等）</li> </ol>			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（2）呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（3）循環器 医学書院			

疾病治療論Ⅱ ( 消化器系障害、内分泌・代謝系障害 )	講師：	1 年後期	1 単位 ( 3 0 時間 )
<b>授業の目標</b> 消化器系障害及び内分泌・代謝系障害により生じる生体機能の変化とその検査・治療を理解する。			
<b>授業の内容</b> 消化器系障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>疾患 食道がん、胃・十二指腸潰瘍、胃がん、大腸がん、肝臓がん、肝炎、肝硬変、イレウス、胆石症</li> <li>症状 嚥下困難、食欲不振・体重減少、腹痛、吐き気・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、腹部膨満（腹水）、肝性脳症</li> <li>検査 肝機能検査、消化管透視、内視鏡検査（腹腔鏡）、超音波検査、肝生検、C T、MR I、P E T、D I C・E R C P、腹腔動脈撮影</li> <li>治療 薬物療法、食事療法、手術療法、放射線療法、腹水穿刺</li> </ol> 内分泌・代謝系障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>疾患 糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、メタボリックシンドローム、尿酸代謝障害 甲状腺疾患、副腎疾患</li> <li>症状 高血糖・低血糖症状、意識障害（精神症状）、けいれん（テタニー）、高血圧、やせ・肥満、浮腫、皮膚の異常、甲状腺腫大</li> <li>検査 ホルモンの血中濃度測定、ホルモン及び代謝産物の尿中量測定、画像検査、尿糖・血糖検査、糖負荷試験、基礎代謝率</li> <li>治療 薬物療法、運動療法、食事療法、手術療法</li> </ol>			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（5）消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（6）内分泌・代謝 医学書院			

<b>疾病治療論Ⅲ</b> (脳神経系障害、運動器系障害)	講師：	2 年前期	1 単位 (30 時間)
<p><b>授業の目標</b></p> <p>脳神経系障害及び運動機能系障害により生じる生体機能の変化とその検査・治療を理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <p>脳神経系障害</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>疾患 脳血管障害（脳内出血、脳梗塞、くも膜下出血）、脳腫瘍、ニューロパチー、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、筋ジストロフィー、重症筋無力症</li> <li>症状 意識障害、失語症・構語障害、運動麻痺、不随意運動、けいれん、感覚障害・視野障害、反射性運動の障害（瞳孔の症状、嚥下障害、排泄障害、呼吸障害）、頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状、頭痛</li> <li>検査 脳脊髄液検査（腰椎穿刺）、脳血管造影、CT、MRI、SPECT・PET、神経学的検査、脳波検査</li> <li>治療 薬物療法、手術療法、運動療法、言語療法</li> </ol> <p>運動機能系障害</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>疾患 骨折、脱臼、捻挫、骨腫瘍、脊髄損傷、脊椎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、関節リウマチ、変形性関節症</li> <li>症状 疼痛、形態の異常、運動麻痺、知覚障害、関節運動の異常、異常歩行・跛行</li> <li>検査 X線検査、MRI、関節・脊髄造影法、関節鏡、各種計測法（徒手筋力テスト等）</li> <li>治療 保存療法（ギプス包帯法・副子法、牽引）、手術療法、理学療法・作業療法、薬物療法、義肢・装具</li> </ol>			
<p><b>授業方法</b> 講義</p> <p><b>評価方法</b> 筆記試験</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学（7）脳・神経 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学（10）運動器 医学書院</p>			

疾病治療論Ⅳ (血液・造血器系障害、 腎泌尿器系障害、女性生 殖器系障害)	講師：	2年後期	1単位(30時間)
<b>授業の目標</b> 血液・造血器系障害及び、腎泌尿器系障害、女性生殖器系障害により生じる生体機能の変化とその検査・治療を理解する。			
<b>授業の内容</b> 血液・造血器系障害 1 疾患 白血病、再生不良性貧血、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、播種性血管内凝固症候群(DIC) 2 症状 貧血、出血性素因、脾腫、リンパ節腫脹、アレルギー反応 3 検査 末梢血検査、骨髄穿刺・生検、血液型、免疫学的検査 4 治療 薬物療法、輸血療法、骨髄移植  腎泌尿器系障害 1 疾患 糸球体腎炎、腎不全、腎硬化症、腎腫瘍、膀胱腫瘍、前立腺肥大、前立腺がん、尿路結石症 2 症状 尿の異常(量・色調の異常、たんぱく尿と尿糖)、排尿症状、浮腫、尿毒症 3 検査 腎機能検査、X線検査(腎盂・尿道・膀胱造影)、MRI、膀胱鏡、腎生検 4 治療 手術療法、碎石術(ESWL、PNL)、薬物療法、食事療法、透析療法  女性生殖器系障害 1 疾患 子宮がん、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍 2 症状 性器出血、帯下、疼痛、排尿障害、外陰部搔痒感、卵巣欠落症状 3 検査 内診・膣鏡診、細胞診、超音波検査、画像検査(CT、MRI、PET、子宮卵管造影法)、内視鏡検査 4 治療 手術療法、薬物療法、放射線療法、膣洗浄・膣タンポン、ダグラス窩穿刺			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(4) 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(8) 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(9) 女性生殖器 医学書院			

疾病治療論Ⅴ ( 麻酔及び手術と全身管理、 リハビリテーション、 放射線療法 )	講師：	2 年前期	1 単位 ( 1 5 時間 )
<b>授業の目標</b> I 麻酔及び手術が生体に及ぼす影響を理解する。 II リハビリテーションの概念を理解し、日常生活行動の自立に向けたリハビリテーションの知識と技術を理解する。 III 放射線治療の特徴と生体機能の変化を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div>             1 麻酔及び手術と全身管理             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全身麻酔</li> <li>(2) 局所麻酔、局所麻酔薬</li> <li>(3) 全身麻酔に必要な薬剤 (筋弛緩薬、麻薬他)</li> <li>(4) 麻酔導入・硬膜外麻酔・脊椎麻酔</li> <li>(5) 麻酔・手術が及ぼす生体への影響</li> <li>(6) 術前評価・術後疼痛管理、術後合併症</li> </ul> </div> <div>             2 リハビリテーション             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) リハビリテーションの定義と理念</li> <li>(2) リハビリテーションの対象と制度</li> <li>(3) 疾病・障害・生活機能の分類</li> <li>(4) リハビリテーション医学の基礎               <ul style="list-style-type: none"> <li>①リハビリテーションの展開</li> <li>②ボディメカニクスと運動機能の評価 (関節可動域テスト、徒手筋力テスト、日常生活動作テスト)</li> </ul> </li> <li>(5) リハビリテーション各論               <ul style="list-style-type: none"> <li>①理学療法</li> <li>②作業療法</li> <li>③言語聴覚療法</li> </ul> </li> </ul> </div> <div>             3 放射線療法             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 放射線医学の成り立ちと意義</li> <li>(2) 放射線治療の基礎               <ul style="list-style-type: none"> <li>①放射線の種類</li> <li>②放射線の単位</li> </ul> </li> <li>(3) 放射線療法に伴う有害反応</li> <li>(4) 放射線防護</li> </ul> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			



薬理学	講師：	1年後期	1単位（30時間）
<b>授業の目標</b> 薬物療法による薬物反応を適切に観察・判断するために、薬物の生体に及ぼす影響、薬物の管理方法や法規上の規制等を理解する。			
<b>授業の内容</b>			
1 薬の基礎知識			
（1）薬の吸収・分布・代謝・排泄			
（2）主作用と副作用（有害反応）			
2 医薬品の管理			
（1）医薬品の期限と保存			
（2）処方箋と調剤			
（3）医薬品添付書類 ・配合変化・配合禁忌			
3 小児・妊婦・高齢者の薬物療法			
4 薬物療法の実際			
（1）脳・中枢神経系に作用する薬			
①てんかんに用いる薬			
②パーキンソン病とドパミン製剤			
③抗不安・催眠作用を示す薬			
④脳血管障害時に用いる薬			
（2）末梢神経系に作用する薬			
①自律神経系に作用・遮断薬			
②アドレナリン受容体作動・遮断薬			
③コリン受容体作動・遮断薬			
④麻酔薬・筋弛緩薬			
（3）心臓・血管系に作用する薬			
①高血圧症に用いる薬			
②狭心症に用いる薬			
③心機能を助ける薬			
（4）消化器系に作用する薬			
①消化性潰瘍に用いる薬			
②便秘や下痢に用いる薬			
③消化運動を改善する薬			
④胆嚢・膵臓疾患に用いる薬			
（5）代謝系に作用する薬			
①糖尿病に用いる薬			
②痛風・高尿酸血症に用いる薬			
③高脂血症に用いる薬			
（6）抗炎症薬			
（7）免疫・アレルギー系に作用する薬			
（8）緑内障・白内障に用いる薬			
（9）病原微生物と抗菌薬			
（10）鎮痛薬			
（11）抗がん薬			
（12）薬物中毒と解毒			
（13）漢方薬			
（14）消毒薬			
5 最近の動向			
（1）治験薬と新薬			
（2）ジェネリック医薬品			
（3）医薬分業			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進（3）薬理学 医学書院			

精神保健論	講師：	2 年前期	1 単位（15 時間）
<p><b>授業の目標</b></p> <p>こころの健康やこころの発達を人格の成熟やライフサイクル、様々な環境と関連づけて理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神保健の概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) こころの健康とは</li> <li>(2) こころと身体</li> </ol> </li> <li>2 人格の成熟 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人格の成熟とは</li> <li>(2) 自我防衛のメカニズム</li> </ol> </li> <li>3 心の発達と健康 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 心の発達</li> <li>(2) ライフサイクルにおける心の健康 <ol style="list-style-type: none"> <li>①愛着と分離不安</li> <li>②コンプレックス</li> <li>③いじめと登校拒否・不登校</li> <li>④アイデンティティの確立</li> <li>⑤老化、老後への不安</li> </ol> </li> <li>(3) 環境と心の健康 <ol style="list-style-type: none"> <li>①家族関係</li> <li>②教育環境</li> <li>③職場</li> <li>④地域社会</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4 医療現場における精神危機</li> <li>5 災害被災者の精神保健</li> </ol>			
<p><b>授業方法</b></p> <p>講義</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>筆記試験</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院</p>			

医療概論	講師：	2 年前期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 医療の倫理と患者の人権について理解するとともに、医療政策、医療と経済について看護と関連づけて理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 医療の概念 （1）医療とは （2）医療に従事する人々 （3）医療を担う組織 （4）日本における医療と社会 （5）国際化の時代と医療  2 医療と人権 （1）患者の権利尊重の背景 （2）患者の自己決定権と知る権利 （3）インフォームド・コンセント  3 生命倫理・医療倫理 （1）脳死と死の判定 （2）臓器移植 （3）延命治療 （4）安楽死、尊厳死 （5）緩和医療 （6）生命操作時代の学問と教育  4 医療政策と医療システム （1）我が国の医療システムとその役割 （2）我が国の医療の問題  5 医療と経済 （1）国民医療費高騰の背景 （2）国民医療費の高騰への対応			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度（1）医療概論 医学書院			

社会福祉論	講師：	2年後期	1単位（30時間）
<b>授業の目標</b> 社会福祉の基本理念と概念を理解し、社会の変化に伴う社会福祉制度及びその活用方法を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 看護と社会福祉  (1) ノーマライゼーション  (2) QOL（生活の質） </div> <div> 5 社会福祉の援助技術  (1) ケースワーク、グループワーク  コミュニティワーク  (2) ソーシャルアクション </div> </div> <div> <div> 2 社会福祉の概念  (1) 社会福祉の定義  (2) 欧米における社会福祉の発達  (3) 日本の社会福祉の発達 </div> <div> 6 社会福祉制度とサービス  (1) 生活保護法と施策  (2) 障害者(児)に関わる法と施策  (3) 児童に関わる法と施策  (4) 高齢者に関わる法と施策  (5) その他の施策  ①配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV法）  ②少子化対策 </div> </div> <div> <div> 3 わが国の社会保障  (1) 社会保障の概念  (2) 主要な国々の社会保障制度  (3) 社会保険制度  ①医療保険制度  ②介護保険制度  ③年金制度  ④雇用保険、労働者災害補償保険 </div> </div> <div> <div> 4 福祉行政  (1) 福祉行政組織  (2) 社会福祉実践組織  ①社会事業  ②社会福祉法人と社会福祉事業  (3) 社会福祉の専門職種 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障（3） 社会福祉と社会保障 MCメディカ出版			

環境保健論 I	講師：	3 年全期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 環境が人間の健康に及ぼす影響を生活環境の現状から学び、健康の保持・増進と疾病の予防のための活動について理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 疾病予防と健康の保持・増進と公衆衛生 （1）公衆衛生とは （2）健康と予防の概念 （3）プライマリ・ヘルス・ケアとヘルスプロモーション （4）公衆衛生の歴史  2 疫学と衛生統計 （1）疫学 （2）衛生統計の現状と推移  3 環境と健康 （1）地球環境問題 （2）生活環境 （3）感染症 （4）食品衛生  4 これからの公衆衛生 （1）国際社会における健康問題 （2）国際保健協力の現状と課題			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> わかりやすい公衆衛生学 ヌーヴェルヒロカワ 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

環境保健論Ⅱ	講師：	3年全期	1単位（15時間）
<b>授業の目標</b> ヘルスプロモーションの視点から、地域保健活動を中心とした看護職の役割と機能について理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 地域保健と衛生行政 （1）保健所と市町村保健センター （2）地域包括支援センター  2 地域保健活動の実際 （1）保健師の役割 （2）母子保健 （3）成人保健 （4）老年保健 （5）精神保健  3 地域以外の保健活動の実際 （1）学校における保健教育と保健管理 （2）職場における健康管理と職業病			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> わかりやすい公衆衛生学 ノーヴェルヒロカワ 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

医療関係法規	講師：	3 年前期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 保健医療制度に関する法律を知り、看護職として活動するために必要な資格制度等を理解する。			
<b>授業の内容</b>			
1 法規総論			
（1）法規と行政			
（2）法規の種類			
（3）衛生関係法規の分類			
（4）厚生行政のしくみ			
2 医事法規			
（1）医師法・歯科医師法			
（2）薬剤師法			
（3）診療放射線技師法			
（4）医療法			
（5）臨床検査技師等に関する法律			
（6）理学療法士及び作業療法士、言語聴覚士法			
（7）社会福祉士及び介護福祉士法 精神保健福祉士法			
（8）栄養士法			
3 薬事法規			
（1）薬事法			
（2）毒物及び劇物取締法			
（3）麻薬及び向精神薬取締法			
（4）安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律			
4 保健衛生法規			
（1）地域保健法			
（2）学校保健安全法			
5 予防衛生法規			
（1）感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律			
（2）予防接種法			
6 環境衛生法規			
7 労働関係法規			
（1）労働基準法			
（2）労働安全衛生法			
（3）育児休業・介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律			
（4）雇用分野における男女の均等な機会及び待遇の確保に関する法律			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度（4）看護関係法令 医学書院 看護六法 新日本法規出版			

看護関係法規	講師：	3 年前期	1 単位（15 時間）
<p><b>授業の目標</b></p> <p>看護に携わる者に最も重要な保健師助産師看護師法を理解し、看護の役割及びその法的責任について理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健師助産師看護師法 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）制定と改正の経緯</li> <li>（2）保健師助産師看護師法の構造と附属法令</li> <li>（3）目的、定義</li> <li>（4）免許、試験、学校・養成所</li> <li>（5）保健師、助産師、看護師の業務内容</li> </ol> </li> <li>2 看護師等の人材確保の促進に関する法律</li> <li>3 医療過誤における法的責任</li> </ol>			
<p><b>授業方法</b> 講義</p> <p><b>評価方法</b> 筆記試験</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度（4）看護関係法令 医学書院</p> <p>看護六法 新日本法規出版</p>			



## 専門分野

臨床判断力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法を学ぶ。 看護の対象を生活者としてとらえ、成長発達段階を理解し、様々な健康状態にある人々や、多職種と連携・協働しながら多様な場で看護を必要とする人々に対する看護の方法を学ぶ。			
78単位 2160時間			
科 目		単位	時間
基 礎 看 護 学		12単位	300時間
地 域 ・ 在 宅 看 護 論		6単位	135時間
成 人 看 護 学		6単位	150時間
老 年 看 護 学		4単位	105時間
小 児 看 護 学		4単位	105時間
母 性 看 護 学		4単位	105時間
精 神 看 護 学		4単位	105時間
看 護 の 統 合 と 実 践		5単位	120時間
小 計		45単位	1125時間
臨地実習	基 礎 看 護 学 実 習Ⅰ (病院の機能と看護の役割、日常生活援助の実際)	1単位	45時間
	基 礎 看 護 学 実 習Ⅱ (基本的欲求に基づく日常生活援助)	2単位	90時間
	地 域 ・ 在 宅 看 護 実 習	3単位	90時間
	成 人 ・ 老 年 看 護 学 実 習Ⅰ (臨床推論を用いた急性期にある患者の看護)	3単位	90時間
	成 人 ・ 老 年 看 護 学 実 習Ⅱ (周手術期にある患者の看護)	3単位	90時間
	成 人 ・ 老 年 看 護 学 実 習Ⅲ (合併症・二次障害予防のための自己管理が必要な患者の看護)	3単位	90時間
	老 年 看 護 学 実 習Ⅰ (老年期の対象の理解、生活の質を維持するための看護)	3単位	90時間
	老 年 看 護 学 実 習Ⅱ (高齢者の健康障害に応じた看護)	3単位	90時間
	小 児 看 護 学 実 習	3単位	90時間
	母 性 看 護 学 実 習	3単位	90時間
	精 神 看 護 学 実 習	3単位	90時間
	統 合 看 護 実 習	3単位	90時間
	小 計	33単位	1035時間

## 基礎看護学

12単位 300時間

目的：看護の本質を理解し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づき実践できる能力を養う。

科目名		単位数	時間数	科目目標	
看護学概論		1	30	看護の実践に必要な基礎的理論、看護の主要概念、看護倫理、看護の役割及び看護の歴史を理解する。	
基礎看護学	看護方法論	看護方法論Ⅰ (安全・安楽)	1	15	看護技術について考え、看護における安全と安楽の意義を理解し、その援助方法を習得する。
		看護方法論Ⅱ (コミュニケーション)	1	15	看護実践に必要な援助的コミュニケーション技術を習得する。
		看護方法論Ⅲ (生活環境の調整、活動、 休息・睡眠)	1	30	生活環境や活動、休息・睡眠が健康に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。
		看護方法論Ⅳ (衣生活・清潔)	1	30	衣生活と清潔が健康に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。
		看護方法論Ⅴ (フィジカルイグザミネーション)	1	30	対象の健康状態を系統的に捉えることを理解し、身体的な情報収集をするための観察技術を習得する。
		看護方法論Ⅵ (フィジカルアセスメント)	1	15	身体症状がある対象に対してフィジカルイグザミネーションを活用しアセスメントできる。
		看護方法論Ⅶ (食生活・排泄)	1	30	食生活と排泄が健康に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。
		看護方法論Ⅷ (看護過程、学習支援技術)	1	30	看護過程の概念を理解し、その展開方法を学ぶ。また看護における学習支援の必要性を理解し、対象に合わせた学習支援方法を習得する。
		看護方法論Ⅸ (感染予防、診察・検査時の看護)	1	30	感染予防と検査・処置に関する看護の役割を理解し、その援助方法を習得する。
		看護方法論Ⅹ (薬物療法時の看護)	1	30	薬物療法に伴う看護の役割と心身に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。
臨床看護方法論		1	15	I 臨床看護の概念を理解する。 II 対象の症状・徴候から問題解決するための臨床判断の基礎的能力を身につける。	

看護学概論	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 看護の実践に必要な基礎的理論、看護の主要概念、看護倫理、看護の役割及び看護の歴史を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="flex: 1; min-width: 300px; padding-right: 10px;"> 1 看護の誕生と発展  (1) 看護の変遷  (2) 欧米の看護の発展  (3) 日本の看護の発展  2 看護の概念  (1) 看護の定義  (2) 看護の主要概念とそれぞれの関係  ①看護  ②人間  ③健康  ④環境  (3) 看護職の資格と責任と業務  (4) 看護の役割と機能  ①保健・医療・福祉システムと看護の位置づけ  ②看護実践の場と役割  (5) 看護におけるケアの意味  3 看護の対象としての人間  (1) 生活者としての人間  ①各期の成長発達  ②生活の 4 つの側面（身体的・精神的・社会的・文化的側面）  (2) 人間のこころの理解  (3) 人間と環境の相互理解 </div> <div style="flex: 1; min-width: 300px;"> 4 健康と看護  (1) 健康の概念  ①健康の定義  ②健康の考え方の変遷  (2) 健康に影響する諸要因と環境  (3) 健康レベルに応じた看護  5 看護理論と看護実践への活用  (1) ナイチンゲールが説く看護の基本  (2) ヘンダーソンの基本的看護  (3) 主要な看護理論  ニード論、セルフケアモデル  適応モデル、相互作用モデル  ケアリング理論、文化ケア理論等  6 看護倫理  (1) 医療をめぐる倫理の歴史  (2) 医療における倫理的問題  ①医療倫理職の倫理規定  ②患者の権利とインフォームド  コンセント  (3) 看護倫理とは  ①看護倫理の必要性  ②看護職の倫理要綱  ③倫理的葛藤と対応  (4) 看護実践における倫理的問題への取り組み </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習（「看護覚え書き」「看護の基本となるもの」から看護を捉える。事例で考える倫理的問題と対応を考える。）			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（1）看護学概論 医学書院 看護学テキストNice 看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用 南江堂 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護覚え書き 日本看護協会出版会			

看護方法論Ⅰ (安全・安楽)	講師：	1 年前期	1 単位（15 時間）		
<b>授業の目標</b> 看護技術について考え、看護における安全と安楽の意義を理解し、その援助方法を習得する。					
<b>授業の内容</b> <table><tr><td>1 看護技術の考え方 (1) 技術とは (2) 看護技術の特徴 (3) 看護技術を適切に実践するための要素 ①科学的根拠に基づいた看護技術の必要性和判断 ②安全・安楽の確保 ③看護技術の正確な方法の熟知と実施 ④患者の状態に応じた看護技術の選択</td><td>2 看護における安全、安楽 (1) 安全の意義 (2) 安全を脅かす因子 (3) 安全を確保する援助 ①生活環境における安全 ②感染予防の意義 (4) 安楽の意義 (5) 安楽を確保する技術 ・良肢位 ・安楽な体位 ・温罨法 ・冷罨法</td></tr></table>				1 看護技術の考え方 (1) 技術とは (2) 看護技術の特徴 (3) 看護技術を適切に実践するための要素 ①科学的根拠に基づいた看護技術の必要性和判断 ②安全・安楽の確保 ③看護技術の正確な方法の熟知と実施 ④患者の状態に応じた看護技術の選択	2 看護における安全、安楽 (1) 安全の意義 (2) 安全を脅かす因子 (3) 安全を確保する援助 ①生活環境における安全 ②感染予防の意義 (4) 安楽の意義 (5) 安楽を確保する技術 ・良肢位 ・安楽な体位 ・温罨法 ・冷罨法
1 看護技術の考え方 (1) 技術とは (2) 看護技術の特徴 (3) 看護技術を適切に実践するための要素 ①科学的根拠に基づいた看護技術の必要性和判断 ②安全・安楽の確保 ③看護技術の正確な方法の熟知と実施 ④患者の状態に応じた看護技術の選択	2 看護における安全、安楽 (1) 安全の意義 (2) 安全を脅かす因子 (3) 安全を確保する援助 ①生活環境における安全 ②感染予防の意義 (4) 安楽の意義 (5) 安楽を確保する技術 ・良肢位 ・安楽な体位 ・温罨法 ・冷罨法				
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 良肢位、安楽な体位、体位の保持、温罨法、冷罨法 衛生的手洗い					
<b>評価方法</b> 筆記試験					
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

看護方法論Ⅱ (コミュニケーション)	講師：	1 年前期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 看護実践に必要な援助的コミュニケーション技術を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 看護におけるコミュニケーションの意義 （1）看護におけるコミュニケーションの重要性と目的 （2）看護におけるコミュニケーションの特徴  2 信頼関係とコミュニケーション （1）患者－看護師の関係 （2）関係構築のためのコミュニケーションの基本  3 効果的なコミュニケーションの実際 （1）傾聴の技術 （2）情報収集の技術 （3）説明の技術 （4）コミュニケーション技術の展開（ロールプレイ） （5）応答能力を高めるためのリフレクション（プロセスレコードの活用）  4 コミュニケーション障害がある人の対応  5 人間関係とチームワーク （1）患者やスタッフとの人間関係 （2）チームワークと多職種連携			
<b>授業方法</b> 講義 演習 ロールプレイ、プロセスレコード <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院			

看護方法論Ⅲ (生活環境の調整、活動、休息・睡眠)	講師：	1 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 生活環境や活動、休息・睡眠が健康に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 生活環境の調整 (1) 生活環境の意義 (2) 環境因子と健康に与える影響 (3) 入院に伴う生活環境の変化 (4) 生活環境の調整方法 ①環境整備 ②ベッドメイキング ③臥床患者のシーツ交換 </div> <div> 2 活動の援助 (1) 活動の意義と身体への影響 (2) 活動を阻害する要因と心身の変化 (3) 活動するための援助方法 ①ボディメカニクス ②基本体位 ③体位変換 ④移乗と移送 (車椅子・ストレッチャー) ⑤歩行介助 </div> <div> 3 休息・睡眠の援助 (1) 休息・睡眠の意義 (2) 睡眠の種類 (3) 睡眠障害の種類 (4) 睡眠を阻害する要因 (5) 休息の不足による心身の変化 (6) 休息・睡眠を促す援助 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 環境整備、臥床患者のシーツ交換、ボディメカニクス 体位変換、車椅子への移乗と移送、ストレッチャーへの移乗と移送、歩行介助			
<b>評価方法</b> 筆記試験 実技試験（車椅子への移乗と移送）			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

看護方法論Ⅳ (衣生活・清潔)	講師：	1 年全期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 衣生活と清潔が健康に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 衣生活の援助 (1) 衣生活の意義 (2) 衣生活に影響する要因 (3) 衣生活のアセスメント (4) 衣生活の援助方法 ・ 臥床患者の寝衣交換  2 清潔の援助 (1) 清潔の意義 (2) 清潔に影響する要因 (3) 清潔のアセスメント (4) 清潔の援助方法 ①全身の清潔の援助方法 ・ 入浴 ・ シャワー浴 ・ 全身清拭 ②身体各部の清潔の援助方法 ・ 部分浴 ・ 部分清拭 ・ 洗髪 ・ 口腔ケア ・ 陰部洗浄（おむつ交換）			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 寝衣交換、全身清拭（足浴含む）、洗髪（臥床状態、座位） 口腔ケア、シャワー浴の介助（演示）、陰部洗浄（おむつ交換）（演示）			
<b>評価方法</b> 筆記試験 実技試験（清拭と寝衣交換）			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

看護方法論Ⅴ (フィジカル イグザミネーション)	講師：	1 年全期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 対象の健康状態を系統的に捉えることを理解し、身体的な情報収集をするための観察技術を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 ヘルスアセスメント (1) ヘルスアセスメントとは (2) フィジカルアセスメントとは (3) フィジカルイグザミネーションとは  2 フィジカルイグザミネーションの共通技術 ・問診、視診、聴診、触診、打診  3 バイタルサインの測定 ・体温、呼吸、血圧、脈拍、意識、SpO <sub>2</sub>  4 身体計測 ・身長、体重、腹囲測定  5 系統別フィジカルイグザミネーション (1) 胸部・肺 (2) 心臓・循環系 (3) 腹部・消化器系 (4) 感覚器系 (5) 脳・神経系 (6) 筋骨格系			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 バイタルサインの測定（体温・呼吸・脈拍・血圧測定、意識レベル評価）の測定 眼・口腔の視診、呼吸音・心音の聴取、腸蠕動音の聴取、腹部の触診 胸部・腹部の打診 <b>評価方法</b> 筆記試験 実技試験（バイタルサインの測定）			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院			



看護方法論Ⅵ (フィジカルアセスメント)	講師：	1 年後期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 身体症状がある対象に対してフィジカルイグザミネーションを活用しアセスメントできる。			
<b>授業の内容</b> 1 身体症状がある対象のフィジカルアセスメントの実際 (1) 事例 ①呼吸困難を訴える対象のフィジカルアセスメント ②胸痛を訴える対象のフィジカルアセスメント ③腹部膨満感を訴える対象のフィジカルアセスメント ④転倒した対象のフィジカルアセスメント (2) フィジカルアセスメントの実践 ①問診、自覚症状の確認 ②フィジカルイグザミネーションによる情報収集 ・対象者の状況に適した項目、方法の検討 ③アセスメント ・必要な情報の選択、情報の統合的な判断 ・基準値や望ましい状態との比較 ・対象者の身体状態の判断 ④アセスメントの活用 ・対象者に必要な看護援助			
<b>授業方法</b> 演習 校内実習 問診からフィジカルアセスメントまで <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図 第3版			

看護方法論Ⅶ (食生活・排泄)	講師：	1 年全期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 食生活と排泄が健康に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> 1 食生活の援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 食事・栄養の意義</li> <li>(2) 食習慣の変化 (治療食・療養食)</li> <li>(3) 食生活による心身の変化</li> <li>(4) 食事・栄養状態のアセスメント</li> <li>(5) 食生活の援助方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>①自立した食事摂取が困難な場合の援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事介助</li> </ul> </li> <li>②経口摂取が困難な場合の援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経管栄養法</li> <li>・経静脈栄養法</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="width: 48%;"> (5) 排泄の援助方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>①床上排泄の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・便器・尿器による介助</li> </ul> </li> <li>②排尿を促す援助方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然排尿を促す方法</li> <li>・一時的導尿</li> <li>・膀胱留置カテーテル</li> </ul> </li> <li>③排便を促す援助方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然排便を促す方法</li> <li>・グリセリン浣腸</li> </ul> </li> </ul> </div> </div> 2 排泄の援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 排泄の意義</li> <li>(2) 排泄に支障をきたすことによる心身の変化</li> <li>(3) 排泄に影響するもの</li> <li>(4) 排泄状態のアセスメント</li> </ul>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 食事介助 便器・尿器による介助、グリセリン浣腸（モデル）、一時的導尿（モデル） 膀胱留置カテーテル（演示） <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（3）栄養学 医学書院			

<b>看護方法論Ⅷ</b> (看護過程、学習支援技術)	講師：	1 年後期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 看護過程の概念を理解し、その展開方法を学ぶ。また看護における学習支援の必要性を理解し、対象に合わせた学習支援方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 看護過程の考え方と展開方法 (1) 看護過程とは (2) 看護過程に看護理論はなぜ必要か (3) 看護過程の基盤となる考え方 ①問題解決課程 ②クリティカルシンキング (4) 看護実践におけるリフレクション (5) 看護過程の構成要素 ①アセスメント ・情報の種類と収集方法 ・情報の分析・解釈、統合 ・問題の明確化（看護問題・共同問題）と優先順位 ②看護計画 ・目標と評価日の設定 ・計画の立案 ③実施 ④評価 (6) 看護記録 ①看護記録の目的と機能 ②看護記録の法的位置づけ ③看護記録の基本的要素 ④記録と倫理、報告 </div> <div> (7) 看護過程の展開 ・基本的欲求が阻害された対象の生活行動の援助 </div> <div> 2 看護における学習支援 (1) 健康戦略の変遷と健康支援の場 (2) 健康状態に応じた学習支援 ①外来における学習支援 ②入院時の学習支援 ③退院時の学習支援 (3) 個人・家族・集団を対象とした学習支援の実践 ①対象に合わせた目標設定 ②対象に合わせた支援方法と媒体の工夫 ・個別的で具体的な学習支援 ・家族を対象とした学習支援の関わり方 ・集団での学習支援を生かす方法 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 看護過程の展開 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図 第3版 医学書院			

<b>看護方法論IX</b> (感染予防、診察・検査時の看護)	<b>講師：</b>	<b>1 年後期</b>	<b>1 単位（30 時間）</b>
<b>授業の目標</b> 感染予防と検査・処置に関する看護の役割を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b>			
<div> <div> 1 感染予防の技術 (1) 感染の成立と予防 (2) スタンダードプリコーション (3) 感染経路別予防策 (4) 洗浄・消毒・滅菌の方法 (5) 感染防護用具、薬液消毒、滅菌物の取り扱い (6) 感染性廃棄物の取り扱い </div> <div> 2 創傷管理の技術 (1) 創傷の治癒過程 (2) 創傷の治癒過程に影響する因子 (3) 創傷処置の方法 ①創洗浄と創保護 ②ドレッシング・包帯法 </div> <div> 3 診察時の看護 (1) 診察時の看護師の役割 (2) 診察介助の方法 </div> <div> 4 検査時の看護 (1) 検査時の看護師の役割 (2) 検体検査 ①検体の採取方法と検体の取り扱い・採尿、採便、採痰 ②静脈血採血の方法 ③動脈血採血の介助 (3) 主な検査時の看護 ①X線撮影（単純・造影） ②CT ③MRI ④内視鏡検査 ⑤超音波検査 ⑥各医学検査（RI、PET） ⑦穿刺検査 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 防護用具の装着（ガウン、マスク、手袋）、無菌操作 静脈血採血（モデル）、包帯法（巻軸包帯、三角巾）			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

看護方法論 X (薬物療法時の看護)	講師：	1 年後期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 薬物療法に伴う看護の役割と心身に与える影響を理解し、その援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 薬物療法時の看護 （1）薬物療法時の看護と法律 （2）薬物療法における安全管理 （3）看護師の役割 （4）与薬方法と効果の観察  2 与薬の援助 （1）経口与薬法 ・内服薬、バツカル錠、舌下錠 （2）吸入療法 ・定量噴霧式吸入器、ドライパウダー吸入器、ネブライザー （3）注射法 ・皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射 輸液ポンプ・シリンジポンプの管理（ME の基本） （4）その他の与薬法 ・直腸内与薬、経皮的与薬、点眼・点鼻法			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 経口与薬、吸入（演示）、直腸内与薬（演示） 皮下注射・筋肉内注射・点滴静脈内注射（モデル） 輸液ポンプ・シリンジポンプ <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			

臨床看護方法論	講師：	2 年前期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> I 臨床看護の概念を理解する。 II 対象の症状・徴候から問題解決するための臨床判断の基礎的能力を身につける。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 臨床看護の概念  (1) 臨床看護とは  (2) 対象の理解  ①急性期  ②慢性期  ③リハビリテーション期 </div> <div> 3 臨床でよくみられる症状に応じた看護  (1) 発熱  (2) 呼吸困難・咳嗽・痰  ①酸素療法  ②一時的吸引  (3) 疼痛  (4) 浮腫  (5) 食欲不振・悪心・嘔吐  (6) 出血・吐血・下血  (7) 水分・電解質異常 </div> </div> <div> 2 臨床判断  (1) 臨床判断とは  (2) 看護師の臨床判断プロセス  (3) 臨床判断の実際  ・呼吸困難がある対象  ・対象の症候から心不全の推察  ・対象に必要な看護 </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 酸素療法（中央配管、酸素ボンベの管理）、一時的吸引（モデル） 臨床推論（演習）			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（4）臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図 第3版 医学書院			

目 的： 地域包括ケアシステム等を促進するために、地域で暮らす人々とのパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する看護を学ぶ。

地域・在宅看護論

科目名	単位数	時間数	科目目標
地域・在宅看護概論Ⅰ (人々の暮らしを支える)	1	15	I 暮らしを理解する。 II 暮らしを支えているものを理解する。 III 健康な暮らしのための個人、地域の役割と関係性を理解する。
地域・在宅看護概論Ⅱ (在宅看護の概要)	1	30	I 在宅看護の概念と在宅看護の役割と機能を理解する。 II 在宅看護の対象者である地域で療養する人とその家族を理解する。
地域・在宅看護概論Ⅲ (対象を取り巻く多職種連携)	1	15	I 対象と対象にかかわる人々と多職種の役割について理解する。 II 多職種連携の必要性と方法を理解する。 III 多職種連携・協働における看護師の役割を理解する。
地域・在宅看護方法論Ⅰ (在宅療養者の日常生活援助)	1	30	地域で療養しながら暮らすために必要なアセスメントの視点を理解し、日常生活の援助方法を習得する。
地域・在宅看護方法論Ⅱ (医療処置に伴う援助)	1	30	I 在宅療養に必要な医療機器管理、観察、異常の早期発見の基本的事項について療養者及び家族とともに管理する視点を理解する。 II 医療処置を受けながら在宅で療養生活を送るための援助方法を習得する。
地域・在宅看護方法論Ⅲ (在宅で療養生活を送る難病の人の看護)	1	15	地域で療養生活を送る難病の療養者とその家族の意思を尊重した看護を理解する。

地域・在宅看護概論Ⅰ (人々の暮らしを支える)	講師：	1年後期	1単位（15時間）
<b>授業の目標</b> Ⅰ 暮らしを理解する。 Ⅱ 暮らしを支えているものを理解する。 Ⅲ 健康な暮らしのための個人、地域の役割と関係性を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 人々の暮らし （１）暮らしとは （２）文化 （３）社会 （４）ライフステージごとの暮らし  2 健康な暮らし （１）健康とは ・ヘルスプロモーション （２）健康と意思決定 （３）環境と健康 （４）生活環境が健康に与える影響  3 健康な暮らしを支えているもの （１）家族 （２）地域 （３）暮らしを支える制度  4 健康な暮らしのための個人の役割  5 健康な暮らしのための地域の役割 （１）行政の健康への取り組み ・地域包括ケアシステム ・地域共生社会の実現 （２）地域の健康への取り組み  6 地域・在宅におけるマナーとコミュニケーション			
<b>授業方法</b> 講義 フィールドワーク（学校周辺において、ライフステージ毎に必要な暮らしを支えているものを発見する）			
<b>評価方法</b> レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論（１）地域・在宅看護の基盤 医学書院			



地域・在宅看護概論Ⅱ (在宅看護の概要)	講師：	2 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> I 在宅看護の概念と在宅看護の役割と機能を理解する。 II 在宅看護の対象者である地域で療養する人とその家族を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 在宅看護の目的と特徴  (1) 社会的背景  (2) 在宅医療・介護と制度  (3) 在宅看護における看護師の役割と機能 </div> <div> 4 地域包括ケアシステムにおける看護  (1) 看護の提供される場  (2) 看護師の役割  (3) 多職種連携の必要性 </div> </div> <div> <div> 2 在宅看護の対象者  (1) 対象者の特徴  (2) 家族  ①在宅看護の対象者としての家族  ②家族に対する理論  ③家族アセスメント </div> <div> 5 ケアマネジメントと社会資源の活用  (1) ケアマネジメントとは  (2) 社会資源活用  ①社会資源の活用と法的制度との関係  ②社会資源の種類  ③介護保険制度におけるケアマネジメント  ④地域の社会資源との連携 </div> </div> <div> <div> 3 訪問看護の概要  (1) 訪問看護制度の創設と発展経緯  (2) 訪問看護制度の理解  ①健康保険法  ②介護保険法  ③障害者総合支援法  (3) 訪問看護サービスの仕組みと提供  ①訪問看護ステーションの概要  ②訪問看護ステーションの利用者  ③訪問看護サービスの内容  ④訪問看護の課題 </div> <div> 6 在宅看護における自己決定支援  (1) 在宅における権利保障  (2) 在宅看護における倫理  (3) 自己決定支援 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 (1) 地域・在宅看護の基盤 <div>医学書院</div> 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

<b>地域・在宅看護概論Ⅲ</b> (対象を取り巻く多職種連携)	<b>講師：</b>	2 年前期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>I 対象と対象にかかわる人々と多職種の役割について理解する。</li> <li>II 多職種連携の必要性と方法を理解する。</li> <li>III 多職種連携・協働における看護師の役割を理解する。</li> </ul>			
<b>授業の内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 地域で療養する対象とその家族の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 暮らしの場</li> <li>(2) 対象と家族の健康</li> <li>(3) ライフステージ</li> <li>(4) 自立・自律</li> </ul> </li> <li>2 地域で療養するための方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 制度、法律</li> <li>(2) 社会資源の活用</li> <li>(3) 地域との関係</li> </ul> </li> <li>3 多職種連携・チームでの協働 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療職をめざす学生との学習を通して多職種を理解する</li> <li>(2) 多職種連携と協働の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの職種の立場から</li> </ul> </li> <li>(3) 多職種連携の中の家族 <ul style="list-style-type: none"> <li>療養者の家族の立場から</li> </ul> </li> <li>(4) 学校・企業との連携</li> </ul> </li> <li>4 多職種連携における看護師の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ケアマネジメント</li> <li>(2) 医師との連携</li> <li>(3) 役割の違う看護師同士の連携</li> </ul> </li> </ul>			
<b>授業方法</b> 講義 演習			
<b>評価方法</b> レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論（1）地域・在宅看護の基盤 医学書院			

地域・在宅看護方法論Ⅰ (在宅療養者の日常生活援助)	講師：	2 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 地域で療養しながら暮らすために必要なアセスメントの視点を理解し、日常生活援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div><div>1 在宅における個別性と主体性を尊重した日常生活の援助 (1) 暮らしの場で看護する心構え ①パートナーシップの構築 ②コミュニケーション・マナー (2) 在宅における生活環境の調整 ①暮らしの場、療養者・家族の意向を理解し、社会資源を見出す生活環境のアセスメント ②療養環境の整備 ③療養者・介護者への学習支援 (3) 在宅における食生活の援助 ①暮らしの場、療養者・家族の意向を理解し、社会資源を見出す食生活のアセスメント ②療養者の健康状態と自力摂取のための援助と工夫 ③療養者・介護者への学習支援 (4) 在宅における排泄の援助 ①暮らしの場、療養者・家族の意向を理解し、社会資源を見出す排泄のアセスメント ②療養者の健康状態と自立度に応じた排泄の援助 ・便秘時の援助：浣腸・摘便 ③療養者・介護者への学習支援</div><div>(5) 在宅における清潔・衣生活の援助 ①暮らしの場、療養者・家族の意向を理解し、社会資源を見出す清潔・衣生活・身だしなみのアセスメント ②療養者の健康状態と自立度に応じた清潔保持のための援助 ・入浴、部分浴、清拭、洗髪、口腔ケア ③療養者・介護者への学習支援 (6) 在宅における活動・休息、睡眠の援助 ①暮らしの場、療養者・家族の意向を理解し、社会資源を見出す活動・休息への援助に関するアセスメント ②移動動作の援助・学習支援 ③活動意欲を向上させる援助・学習支援</div></div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 在宅での清拭・部分浴・洗髪 摘便（モデル）			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論（2）地域・在宅看護の実践 医学書院 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 メディカルフレンド社			

(5) 在宅における清潔・衣生活の援助

①暮らしの場、療養者・家族の意向を理解し、社会資源を見出す清潔・衣生活・身だしなみのアセスメント
②療養者の健康状態と自立度に応じた清潔保持のための援助

・入浴、部分浴、清拭、洗髪、口腔ケア

③療養者・介護者への学習支援

(6) 在宅における活動・休息、睡眠の援助

①暮らしの場、療養者・家族の意向を理解し、社会資源を見出す活動・休息への援助に関するアセスメント
②移動動作の援助・学習支援
③活動意欲を向上させる援助・学習支援

地域・在宅看護方法論Ⅱ (医療処置に伴う援助)	講師：	2年後期	1単位（30時間）
<b>授業の目標</b> I 在宅療養に必要な医療機器管理、観察、異常の早期発見の基本的事項について療養者及び家族とともに管理する視点を理解する。 II 医療処置を受けながら在宅で療養生活を送るための援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 在宅におけるにおける安全管理  (1) 災害に対する対応  (2) 感染防止  (3) 環境の整備  (転倒、火傷、熱中症、火災)  2 服薬管理  ・服薬管理と指導（麻薬の管理）  3 医療処置に伴う日常生活援助  (1) 在宅経管栄養法（経鼻、胃瘻）の援助  ①経管栄養の実施・管理方法  ②療養者と家族に対する教育と生活指導  (2) 在宅中心静脈栄養の支援  ①在宅中心静脈栄養の対象と適応  ②在宅中心静脈栄養の種類と管理  ③療養者と家族に対する教育と生活指導  (3) 褥瘡ケア  ①褥瘡のリスクアセスメント  ・褥瘡の発生原因と好発部位  ・褥瘡の進行過程  ②褥瘡予防・処置の教育と生活指導  (4) 膀胱内留置カテーテル・自己導尿の援助  ①基本的ケアと管理  ②療養者と家族に対する教育と生活指導 </div> <div> (5) ストーマケア  ①ストーマの種類  ②療養者と家族に対する教育と生活指導  (6) 在宅酸素療法の支援  ①在宅酸素療法の適応基準  ②酸素供給装置の種類と管理  ③療養者と家族に対する教育と生活指導  (7) 在宅人工呼吸療法の支援  ①在宅人工呼吸療法の対象  ②人工呼吸器の管理  ・トラブルと対策  ・関連機関との連携  ③療養者と家族に対する教育と生活指導  (8) 気管カニューレ装着の支援  ①気管切開を必要とする対象  ②気管切開中のケア  ・気管カニューレの種類と取扱い  ・気管切開孔からの吸引  ・気管切開孔の処置  ③療養者と家族に対する教育と生活指導 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 経管栄養（PEG）、褥瘡の予防と処置、気管カニューレの取り扱い 気管切開孔からの吸引（モデル） <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論（2）地域・在宅看護の実践 <div>医学書院</div> 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 メヂカルフレンド社			

地域・在宅看護方法論Ⅲ (在宅で療養生活を送る 難病の人の看護)	講師：	2年後期	1単位（15時間）
<b>授業の目標</b> 地域で療養生活を送る難病の療養者とその家族の意思を尊重した看護を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 看護過程の展開 (1) 在宅看護過程の特徴 (2) 在宅における情報収集 (3) 在宅におけるアセスメントの視点 (4) 在宅における病状・病態の経過と予測と予防 (5) 社会資源の活用 (6) 意思決定支援とその方法 (7) 在宅における看護計画  2 難病の療養者と家族への援助（パーキンソン病・ALS） (1) 病期や機能障害に応じた看護 (2) 在宅療養継続のための健康危機管理 (3) 療養者の自立支援のQOLの維持・向上のための在宅療養支援 (4) 在宅療養継続のための家族の支援 (5) 多職種連携 (6) 意思決定支援			
<b>授業方法</b> 講義 演習 看護過程の展開 （個人でアセスメントし問題リストまで個人でまとめる。） <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論（2）地域・在宅看護の実践 医学書院 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 メヂカルフレンド社 強みと弱みからみた 在宅看護過程＋総合的機能関連図 医学書院			

## 成人看護学

6単位 150時間

目的： 成人期の特徴を理解し、健康の保持増進への援助、健康障害をもつ成人期の患者とその家族に対する看護について学ぶ。

科目名		単位数	時間数	科目目標
成人看護学	成人看護学概論	1	30	I 成人期の特徴及び発達課題を学び、成人看護の目的、機能と役割を理解する。 II 成人看護に必要な看護理論を用いて疾患とともに生活する成人期を理解する。
	成人看護学方法論Ⅰ (急性期ケア)	1	30	生命危機状態にある患者の急性期から回復期における身体的・精神的特徴を学び、急性期ケアに必要な知識・技術・態度を理解する。
	成人看護学方法論Ⅱ (周手術期ケア)	1	30	周手術期にある患者の急性期から回復期における身体的・精神的変化を学び、麻酔や手術による形態機能の変化に応じた看護に必要な知識・技術・態度を理解する。
	成人看護学方法論Ⅲ (セルフケア)	1	30	合併症・二次障害の予防のために生活の自己管理が必要な慢性期の患者の特徴を学び、セルフケアに必要な知識・技術・態度を理解する。
	成人看護学方法論Ⅳ (緩和ケア・がん看護)	1	15	I 緩和ケアの必要な患者と家族の身体的・心理社会的・スピリチュアルな特徴を学び、緩和ケアとがん看護に必要な知識・技術・態度を理解する。 II 放射線治療・化学療法における患者の身体的・心理的・社会的苦痛が理解でき、看護支援を考えることができる。
	成人看護学方法論Ⅴ (成人看護技術)	1	15	I 生命危機状態にある患者の看護に必要な看護技術を習得する。 II 慢性期の患者のセルフケアを維持、促進するための指導技術を習得する。

成人看護学概論	講師：	1年後期	1単位（30時間）
<b>授業の目標</b> I 成人期の特徴及び発達課題を学び、成人看護の目的、機能と役割を理解する。 II 成人看護に必要な看護理論を用いて疾患とともに生活する成人期を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 成人期の特徴  (1) 成人期の身体的・心理的・社会的文化的特徴  ①ライフサイクルにおける成人期の発達課題  ②成人期の心身の成長  ・エリクソン  ・ハヴィガースト  ・レビンソン  (2) 成人期とセクシュアリティ </div> <div> 4 成人看護学に用いられる基礎理論  (1) ストレス・コーピング理論  (2) 危機理論  (3) セルフケア理論  (4) 家族システム理論 </div> <div> 2 わが国の成人各期の保健施策  (1) 国民健康づくり運動と健康増進  (2) 地域・職場における保健事業と法 </div> <div> 5 成人期にある対象への系統的アプローチ  全体像を把握するためのアセスメント方法 </div> <div> 3 成人の生活と健康  (1) 健康に影響を及ぼす要因  ①生活環境と生活習慣  ②職業と職場環境  (2) 現代のライフスタイルと健康状況  ・成人各期の疾病（死因・受療率）の概況  (3) 社会的役割と治療と生活  ・健康の維持・予防 </div> <div> 6 成人期にある対象の健康の保持と健康レベルに応じた対象の理解と看護  (1) 成人期の看護の特徴  (2) ヘルスプロモーションへ向けたプライマリヘルスケア  (3) 生活機能障害のある人への看護  (4) 急性期にある人の特徴と看護の役割  (5) 慢性期・リハビリ期の対象の特徴と看護の役割（治療的セルフケア） </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（1）成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

成人看護学方法論Ⅰ (急性期ケア)	講師：	2年前期	1単位(30時間)
<b>授業の目標</b> 生命危機状態にある患者の急性期から回復期における身体的・精神的特徴を学び、急性期ケアに必要な知識・技術・態度を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 急性期ケアが必要な患者の特徴  (1) 急性期ケアと集中治療  (2) 患者の精神的特徴  ① ストレス  ② せん妄状態  (3) 生命が危機状態にある患者の家族への配慮と看護 </div> <div> 2 生命が危機状態にある患者の看護  (1) 中枢性意識障害にある患者の看護  (脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞)  ① 意識障害の程度・分類・原因  ② 脳血管障害時の看護  ・急性期のアセスメントの視点  ・循環動態(血圧)、呼吸の管理  ・輸液と水分平衡管理  ・環境の調整  ・二次的障害・合併症の予防  ③ 人工呼吸器装着時の看護  ④ 頭蓋内圧亢進時の看護 </div> <div> (2) 循環機能障害にある患者の看護  ① 虚血性心筋障害の急性期の看護  (心筋梗塞、狭心症)  ・急性期のアセスメントの視点  ・循環動態、呼吸の管理  中心静脈圧測定(CVP)  ・補助循環装置装着中の看護  ・苦痛の軽減  ・合併症・再発作の予防  ・薬物療法の管理  ・発作の予防と患者指導  ・心臓リハビリテーション  ② 刺激伝導系障害時(不整脈)の看護  ・心電図モニターの装着  (2誘導・12誘導)  ・薬物療法とアセスメントの視点  ・ペースメーカー装着時の看護  ③ 心臓カテーテル検査・治療時の看護  ・右心カテーテル、左心カテーテル検査と看護  ・インターベンション治療と看護 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2) 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3) 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7) 脳・神経 医学書院			



成人看護学方法論Ⅱ (周手術期ケア)	講師：	2年前期	1単位(30時間)
<b>授業の目標</b> 周手術期にある患者の急性期から回復期における身体的・精神的変化を学び、麻酔や手術による形態機能の変化に応じた看護に必要な知識・技術・態度を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 手術、麻酔が身体へ及ぼす影響と看護 (1) 術前・術後の看護 ①術前の意思決定 ②患者を支える家族の役割 (2) 術前の看護 ①術前オリエンテーション ②手術に対する不安・恐怖への援助 ③術前検査と術前処置 ④呼吸訓練 (3) 術中の看護 ①手術室の環境 ②麻酔導入時の看護 ③手術体位の固定 ④麻酔時の全身管理 2 術後の看護 (1) 術後の病床環境調整 (2) 術直後のアセスメントの視点 ①意識状態 ②呼吸状態 ③出血量 ④循環動態および水分平衡 </div> <div> (3) 術後合併症の予防のための看護 ①呼吸器系合併症(無気肺・肺炎) ・肺理学療法(排痰体位) ・離床への援助 ②循環器系合併症(ショック、血栓症) ③消化器系合併症(腸閉塞) ④術後せん妄 (4) 術後の急性疼痛と看護 ①疼痛のアセスメント (5) 術式に応じた看護 ①乳がん切除術 ・携帯用低圧持続吸引器の管理 ・ボディイメージの変容と看護 ②子宮全摘術 ③開胸術(肺がん) 胸腔ドレーン挿入中の管理 ④開腹術(大腸がん) ・ストマ造設をする患者の看護 ・腹部ドレーン管理 ⑤腹腔鏡下内視鏡術(胆石症) (6) 胃切除後症候群に対する生活指導(胃がん) ①ダンピング症候群 ②逆流性食道炎 ③貧血 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 校内演習(手術療法を受ける患者の観察とアセスメント)			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5) 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			

成人看護学方法論Ⅲ (セルフケア)	講師：	2 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 合併症・二次障害の予防のために生活の自己管理が必要な慢性期の患者の特徴を学び、セルフケアに必要な知識・技術・態度を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> 1 セルフケアの必要な患者の特徴  (1) 慢性疾患・慢性期とセルフケア  (2) 患者の身体的特徴  ①機能低下  ②不可逆的な変化  (3) 患者の精神的特徴  2 慢性期の患者の看護  (1) 肝機能障害にある患者の看護  (肝硬変、肝臓がん)  ①アセスメントの視点  ②症状（黄疸、腹水、肝性脳症等）出現時の看護  ③治療・検査時の看護  ・インターフェロン療法時の看護  ・肝庇護、肝機能障害の進行、合併症予防の生活指導  ・肝動脈化学塞栓術、肝生検の合併症と看護  (2) 腎機能障害にある患者の看護  (腎不全、尿毒症)  ①アセスメントの視点  ②症状（浮腫、高血圧、尿の異常、尿毒症等）出現時の看護  ③治療・検査時の看護  ・薬物療法（利尿剤・降圧剤、ステロイド療法）と看護  ・生活指導、食事療法と看護  ・血液透析・腹膜透析時の看護  (3) 甲状腺・副甲状腺機能障害にある患者の看護  ①アセスメントの視点  ②症状（意識障害、テタニー、甲状腺クリーゼ、高カルシウム血症等）出現時の看護  ③治療・検査時の看護  ・薬物療法（抗甲状腺薬、放射性ヨード）と看護  ・生活指導、食事療法と看護  3 慢性疾患患者の家族への看護  (1) 知識や情報の提供  (2) 患者ケアへの参加の促進 </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（1）成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（5）消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（6）内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（8）腎・泌尿器 医学書院			

成人看護学方法論Ⅳ (緩和ケア・がん看護)	講師：	2年後期	1単位（15時間）
<b>授業の目標</b> I 緩和ケアの必要な患者と家族の身体的・心理社会的・スピリチュアルな特徴を学び、緩和ケアとがん看護に必要な知識・技術・態度を理解する。 II 放射線治療・化学療法における患者の身体的・心理的・社会的苦痛が理解でき、看護支援を考えることができる。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 緩和ケアの必要な患者の看護  (1) 緩和ケアとは  (2) 緩和ケアが必要な患者の特徴  (3) QOLと尊厳死  (4) 全人的苦痛と看護  ①身体的苦痛  ・痛みの原因と発生機序  ・がん性疼痛治療における基本原則  ・全身倦怠感  ・呼吸困難  ・消化器症状  ・浮腫、その他  ②心理社会的苦痛  ③スピリチュアルペイン  (5) 患者と家族の心理プロセスと看護 </div> <div> 2 がん看護  (1) がんの治療の特徴  (2) 放射線治療と看護  ①放射線治療を受ける患者への指導  ・外部照射（食道がん、脳・骨転移）  ・小線源治療（前立腺がん）  ②部位別治療の看護  ③治療による有害事象と看護  (3) 化学療法と看護  ①化学療法の種類と効果  ②化学療法の感受性  ③抗がん剤暴露防止の方法  ④外来化学療法（乳がん）時の看護  ⑤有害事象に対する看護  ・骨髄抑制  ・消化器毒性  ・腎毒性、その他  ⑥輸血療法と看護  (4) がんサバイバーへの看護  ・アピアランスケア  ・AYA世代への関わり </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（2）呼吸器 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院			

成人看護学方法論Ⅴ (成人看護技術)	講師：	2年後期	1単位（15時間）
<b>授業の目標</b> I 生命危機状態にある患者の看護に必要な看護技術を習得する。 II 糖尿病患者の合併症を予防するための看護を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 心肺蘇生法  (1) 一次救命処置  ①気道の確保  ②人工呼吸  ③胸骨圧迫心臓マッサージ  ④心肺蘇生法の効果の見方  (2) 気道確保  ・気管内挿管  (3) AED </div> <div> 2 糖尿病患者の看護  (1) 血糖コントロール状態の把握  (2) 食事療法  (3) 運動療法  (4) 薬物療法  (経口血糖降下薬、インスリン)  (5) シックデイ時の看護  (6) 急性合併症出現時の対処  ①糖尿病性ケトアシドーシス  ②高血糖高浸透圧症候群  ③低血糖  (7) 慢性合併症の早期発見・進行予防  ①網膜症  ②腎症  ③神経障害  ④足病変とフットケア </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 校内実習 心肺蘇生法（人工呼吸、胸骨圧迫心臓マッサージ、AED）（モデル人形） 簡易血糖測定 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（6）内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院			

# 老年看護学

4単位 105時間

目的： 老年期にある対象を理解し、老化に応じた看護及び健康障害をもつ高齢者とその家族に対する看護について学ぶ。

科目名		単位数	時間数	科目目標
老年看護学	老年看護学概論	1	30	I 老年期にある人について、老年看護の目的・機能・基本と役割を理解する。 II 高齢社会の現状を総合的に学び、高齢者の尊厳や暮らしを支える保健医療福祉制度を理解する。
	老年看護学方法論Ⅰ (高齢者の日常生活援助)	1	30	加齢による機能低下や健康障害のある高齢者に対して、自立を目指した生活の援助方法を習得する。
	老年看護学方法論Ⅱ (高齢者の健康障害時の看護)	1	30	高齢者にみられる主要な症状や健康障害のある高齢者及び家族の援助に必要な知識・技術・態度を理解する。
	老年看護学方法論Ⅲ (認知機能障害のある 高齢者の看護)	1	15	認知機能障害により日常生活に困難を要する高齢者の援助に必要な知識・技術・態度を習得する。

老年看護学概論	講師：	1 年後期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> I 老年期にある人について、老年看護の目的・機能・基本と役割を理解する。 II 高齢社会の現状を総合的に学び、高齢者の尊厳や暮らしを支える保健医療福祉制度を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 老年期にある人の理解  (1) 発達課題からみた高齢者  (2) ライフサイクルからみた高齢者  (3) 加齢に伴う変化と高齢者の特徴  ① 加齢と老化  ② 身体面の変化と特徴  ③ 知的機能・認知機能の特徴  ④ 心理面の特徴  ⑤ ライフサイクルと発達課題  (4) 高齢者の疾病の特徴  (5) 高齢者のヘルスプロモーション </div> <div> 3 老年看護の概念  (1) 老年看護のなりたち  (2) 老年看護の特徴  (3) 看護の役割  (4) 老年看護を支える理論・概念  ① コンフォート理論  ② パーソンセンタードケア  ③ ライフレビュー  (5) 高齢者のリスクマネジメント  ① 医療安全  ② 災害看護  (6) 死を迎える高齢者の看護  ① 終末期にある高齢者の特徴  ② 安らかな死を迎えるための援助 </div> </div> <div> 2 超高齢社会と社会保障  (1) 高齢社会の統計的輪郭  ① 超高齢社会の現況  ② 高齢者の暮らしと家族の変化  ③ 高齢者の健康状態  (2) 高齢社会における保健医療福祉制度  ① 保健医療福祉制度の変遷  ② 介護保険制度  ③ 地域包括ケアシステム  ④ 高齢者の医療制度  (3) 高齢者の人権と社会問題  ① 高齢者差別  ② 高齢者虐待  ③ 身体拘束  ④ 高齢者の権利擁護のための制度 </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 校内実習（高齢者疑似体験）			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾患論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

老年看護学方法論Ⅰ (高齢者の日常生活援助)	講師：	2年前期	1単位(30時間)
<b>授業の目標</b> 加齢による機能低下や健康障害のある高齢者に対して、自立を目指した生活の援助方法を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 高齢者とのコミュニケーション (1) コミュニケーションに影響する加齢変化 (2) コミュニケーションに影響する加齢変化をふまえた関り (3) コミュニケーションに影響する高齢者に多い疾患 (4) コミュニケーションを助けるツール </div> <div> 2 高齢者のからだのアセスメント (1) 高齢者のフィジカルアセスメント (2) 高齢者によくみられる症状とその看護 </div> <div> 3 高齢者の生活機能のアセスメント (1) 高齢者が日常生活を営むための機能 ①国際生活機能分類(ICF) ②日常生活動作の評価(BADL・IADL) (2) 健康障害や認知機能低下のある高齢者の日常生活自立度 (3) 総合機能評価(CGA) </div> <div> 4 高齢者の生活行動を支える援助 (1) 日常生活の中の行動と観察の視点 ①活動と休息 ②食生活と栄養 ③排泄 ④清潔と衣生活 (2) 生活行動に目を向けた看護 ①活動と休息の事例検討 ②食生活と栄養の事例検討 ③排泄の事例検討 ④清潔と衣生活の事例検討 </div> <div> 5 高齢者の事故防止の援助 (1) 転倒・転落 (2) 誤飲・窒息 (3) 溺水 </div> <div> 6 高齢者の安全・安楽を守る看護技術 (1) 誤嚥を予防する食事介助 (2) 口腔ケアと義歯の取り扱い (3) 加齢による身体変化のある高齢者のおむつ交換、陰部洗浄 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 校内実習 誤嚥予防を考慮した食事介助、義歯の取り扱い 加齢による身体変化のある高齢者の衣類交換、おむつ交換、陰部洗浄(モデル)			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾患論 医学書院 老年看護技術 医学書院			

<b>老年看護学方法論Ⅱ</b> (高齢者の健康障害時の看護)	講師：	2 年前期	1 単位 (30 時間)
<b>授業の目標</b> 高齢者にみられる主要な症状や健康障害のある高齢者及び家族の援助に必要な知識・技術・態度を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 老年症候群と看護            (1) フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム            (2) 廃用症候群            (3) 脱水            (4) 掻痒症            (5) 骨粗鬆症         </div> <div> 4 健康障害のある高齢者の家族への看護         </div> </div> <div> 2 外来で診療を受ける高齢者の看護            (1) 外来で診療を受ける高齢者の特徴と看護            (2) 検査を受ける高齢者の看護            (3) 薬物療法を受ける高齢者の看護(高血圧)         </div> <div> 3 入院して診療を受ける高齢者の看護            (1) 入院時や入院中の看護            (2) 高齢者のせん妄に関する看護            (3) 手術療法を受ける高齢者の看護            (4) リハビリテーションを受ける高齢者の看護            (5) 高齢者の退院支援            (6) 事例：大腿骨近位端骨折で手術を受ける高齢者の看護         </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾患論 医学書院 老年看護技術 医学書院			



<b>老年看護学方法論Ⅲ</b> (認知機能障害のある 高齢者の看護)	<b>講師：</b>	<b>2年後期</b>	<b>1単位（15時間）</b>
<b>授業の目標</b> 認知機能障害により日常生活に困難を要する高齢者の援助に必要な知識・技術・態度を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 認知機能障害のある高齢者の看護 (1) 認知機能障害のある高齢者の特徴 (2) 認知症のある高齢者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に特徴的な症状</li> <li>・認知症診断・治療と予防</li> <li>・認知機能の評価</li> <li>・パーソンセンタードケア</li> <li>・認知機能障害に対する看護</li> <li>・BPSDに対する看護</li> <li>・認知機能障害のある患者の家族への看護</li> </ul> (3) 手術療法及びリハビリテーションを受ける認知機能障害のある高齢者の看護過程の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢や健康障害、治療による生活機能への影響</li> <li>・疾患や入院生活が認知機能に及ぼす影響</li> <li>・対象の強みを見出し、対象の個別性に応じた苦痛緩和や機能回復に関する援助計画</li> </ul>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 看護過程の展開（手術療法及びリハビリテーションを受ける認知機能障害のある高齢者の看護）			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾患論 医学書院 老年看護技術 医学書院			

# 小児看護学

4単位 105時間

目的： あらゆる健康レベルにある小児に対して、よりよい健康状態を保持し健全な人間形成を遂げられるよう、小児とその家族に対する看護について学ぶ。

科目名		単位数	時間数	科目目標
小児看護学	小児看護学概論	1	30	I 小児看護の変遷・現状を学び、小児看護の目的・機能・役割を理解する。 II 小児各期の形態・機能、精神的・社会的特徴を学び、各期に応じた生活援助を理解する。 III 現代の小児の健康問題の動向を総合的に学び、小児の健全な成長発達を支える社会・環境・保健医療福祉制度を理解する。
	小児看護学方法論Ⅰ (小児の健康障害)	1	30	小児に特有な健康障害及び検査・治療を理解する。
	小児看護学方法論Ⅱ (小児の健康障害時の看護)	1	30	保健医療チームにおける看護の役割を学び、小児の健康障害に応じた看護を理解する。
	小児看護学方法論Ⅲ (小児看護技術)	1	15	小児看護に必要な技術を習得する。

小児看護学概論	講師：	2 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> I 小児看護の変遷・現状を学び、小児看護の目的・機能・役割を理解する。 II 小児各期の形態・機能、精神的・社会的特徴を学び、各期に応じた生活援助を理解する。 III 現代の小児の健康問題の動向を総合的に学び、小児の健全な成長発達を支える社会・環境・保健医療福祉制度を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 小児と看護  (1) 小児看護の変遷  ①小児観の変遷  ②社会変化に伴う小児医療・看護の変遷  (2) 小児看護の概念  ①小児看護の対象  ②小児看護の目標  ③小児看護の特徴  ④小児の人権と看護  (インフォームドアセント) </div> <div> 2 小児の理解  (1) 小児とは  ①ライフサイクルからみた小児期  ②発達理論  (2) 成長発達と健康評価  ①形態的成長・機能的発達  ②精神的・社会的発達  (3) 小児と栄養  (4) 小児と生活習慣の獲得  食事、排泄、睡眠、清潔行動  衣服の着脱  (5) 小児と遊び・学習 </div> <div> 3 社会の中の小児  (1) 小児保健の動向  ①小児の衛生統計  ②小児を取り巻く諸問題  (2) 小児の保健医療福祉制度と社会資源  ①児童福祉法、児童虐待防止法  ②児童憲章、児童の権利に関する条約  ③子育て支援施策  (3) 小児保健活動  ①健康診査  ②予防接種  ③学校保健の実際  ④事故防止、安全教育 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 小児看護学（1）小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			

小児看護学方法論Ⅰ (小児の健康障害)	講師：	2年後期	1単位(30時間)
<b>授業の目標</b> 小児に特有な健康障害及び検査・治療を理解する。			
<b>授業の内容</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 染色体異常、胎内環境により発症する先天異常 ・ダウン症候群、ターナー症候群、風疹症候群</li> <li>2 新生児の疾患 ・低出生体重児、新生児仮死、呼吸窮迫症候群、高ビリルビン血症</li> <li>3 代謝性疾患 ・先天代謝異常症、1型糖尿病、周期性嘔吐症</li> <li>4 内分泌系疾患 ・低身長症、クレチン症、中枢性思春期早発症</li> <li>5 アレルギー性疾患、膠原病 ・気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎</li> <li>6 感染性疾患             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ウィルス感染症 ・麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、ヘルパンギーナ、ポリオ</li> <li>(2) 細菌感染症 ・百日咳、ジフテリア、細菌性髄膜炎、溶血性レンサ球菌感染症</li> </ol> </li> <li>7 呼吸器系疾患 ・風邪症候群、ループ症候群</li> <li>8 循環器系疾患 ・心室中隔欠損症、ファロー四徴症、川崎病、乳幼児突然死症候群</li> <li>9 消化器系疾患 ・重積症、肥厚性幽門狭窄症、食道閉鎖、胆道閉鎖、鎖肛</li> <li>10 血液・造血器系疾患 ・急性白血病、再生不良性貧血、血友病、特発性血小板減少性紫斑病</li> <li>11 腎泌尿器系疾患、生殖器系疾患 ・ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、水腎症、膀胱尿管逆流症</li> <li>12 神経系疾患 ・てんかん、熱性けいれん、脳性麻痺、水頭症、二分脊椎</li> <li>13 運動器疾患 ・発育性股関節形成不全、骨折</li> </ol>			
<b>授業方法</b> 講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 <div style="text-align: right;">医学書院</div> 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 医学書院			

小児看護学方法論Ⅱ (小児の健康障害時の看護)	講師：	2年後期	1単位(30時間)
<b>授業の目標</b> 保健医療チームにおける看護の役割を学び、小児の健康障害に応じた看護を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 疾病・障害をもつ小児と家族の看護  (1) 疾病・障害が小児と家族に与える影響  (2) 小児の健康問題と看護  2 外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護  (1) 外来における看護  ① 外来看護の特徴  ② 外来の機能と看護  ③ 外来の環境  (2) 入院に伴う看護  ① 新生児の入院と看護  ② 乳児の入院と看護  ③ 幼児の入院と看護  ④ 学童の入院と看護  ⑤ 思春期の入院と看護  3 手術を受ける小児と家族の看護  (1) 小児の手術の特徴  (2) 周手術期の看護  (3) 小児の痛みの評価と緩和  (4) プリパレーション  4 健康障害のある小児の生活と看護  (1) 生活制限のある小児と家族の看護  (2) 在宅療養を行う小児と家族の看護  5 心身障害のある小児と家族の看護  (1) 障害の受容  (2) リハビリテーションと看護  (3) 日常生活への支援  6 虐待を受けている小児と家族の看護  (1) リスク要因と発生予防・早期発見 </div> <div> (2) 求められるケア  7 さまざまな健康障害がある小児と家族の看護  (1) 急性期にある小児と家族の看護  ① 低出生体重児の看護  ② 消化機能障害のある小児の看護(急性胃腸炎)  ③ 循環機能障害のある小児の看護(川崎病、ファロー四徴症)  (2) 慢性期にある小児と家族の看護  ① 生体防御機能障害(アレルギー)のある小児の看護(気管支喘息)  ② 腎機能障害のある小児の看護(ネフローゼ症候群)  ③ 糖代謝障害のある小児の看護(1型糖尿病)  (3) 予後不良な小児と家族の看護(急性白血病)  ① 化学療法と看護  ② 終末期にある小児の心身の状態と緩和ケア  ③ 小児の死を看取る家族への看護  (4) 救急処置が必要な小児と家族の看護  ① 小児の熱傷の特徴・重症度及び処置  ② 溺水と処置  ③ 誤飲と処置  ④ 小児の心肺蘇生 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 小児の心肺蘇生(演示)			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 医学書院			

小児看護学方法論Ⅲ (小児看護技術)	講師：	2年後期	1単位(15時間)
<b>授業の目標</b> 小児看護に必要な技術を習得する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 小児に特有な看護技術  (1) アセスメントに必要な技術  ①子ども、家族とのコミュニケーション  ②バイタルサインの測定  ・体温・心拍・脈拍・呼吸・血圧・意識レベル  ③身体計測  ・乳児の身長・体重・頭囲・胸囲・腹囲  (2) 生活環境を整える技術  ①ベッド柵の取り扱い  (転倒、転落の予防)  ②保育器の取り扱い  (3) 遊びの援助 </div> <div> (4) 治療・処置に伴う援助技術  ①検査時の援助  採尿、採血  腰椎穿刺、骨髄穿刺  ②与薬時の援助  経口与薬、点滴静脈内注射  ③酸素療法時の援助  酸素吸入  (テント・カニューレ・マスク)  ④診察の介助  ・診察・処置時の固定と抑制法 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 体温・心拍・脈拍・呼吸・血圧測定(モデル人形) 身長・体重・頭囲・胸囲・腹囲測定(モデル人形) ベッド柵の取扱い、保育器の取扱い、採尿(モデル人形) 採血の介助、腰椎穿刺の介助、点滴静脈内注射の介助 診察・処置時の固定と抑制法 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ			

## 母性看護学

4単位 105時間

目的： 女性のライフサイクルにおける身体・精神・社会面の特徴を理解し、母性看護について学ぶ。

科目名		単位数	時間数	科目目標
母性看護学	母性看護学概論	1	30	I 母性の概念・母性看護の目的・機能・役割を理解する。 II 母子保健の動向を学び、母性看護の課題や必要性を理解する。 II 女性のライフサイクルにおける健康の保持・増進、次世代の健全育成を目指した看護を理解する。
	母性看護学方法論Ⅰ (妊娠期・分娩期の看護)	1	30	I 妊娠期・分娩期に必要な看護及び保健指導を理解する。 II 正常を逸脱した、妊婦・産婦の看護を理解する。
	母性看護学方法論Ⅱ (産褥期・新生児の看護)	1	30	I 産褥期に必要な看護を理解する。 II 新生児の看護を理解する。 III 産褥期にある対象への看護過程の展開方法を理解する。 IV 正常を逸脱した褥婦の看護を理解する。
	母性看護学方法論Ⅲ (母性看護に必要な技術)	1	15	I 産褥期に必要な看護技術、保健指導を習得する。 II 新生児に必要な看護技術を習得する。

母性看護学概論	講師：	2 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> I 母性の概念・母性看護の目的・機能・役割を理解する。 II 母子保健の動向を学び、母性看護の課題や必要性を理解する。 III 女性のライフサイクルにおける健康の保持・増進、次世代の健全育成を目指した看護を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 母性看護の基盤となる概念  (1) 母性とは、父性とは、親性とは  (2) リプロダクティブ・ヘルス／ライツ  (3) セクシュアリティ  (4) ヘルスプロモーション  (5) 母性看護のあり方 </div> <div> 4 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状  (1) 歴史的変遷と現状  ①母性看護の変遷  ②母子保健統計からみた動向  ③母性看護に関する法律  ④母子保健施策からみた現状  ⑤母子保健の国際化  (2) 対象を取り巻く環境  ①母性看護にかかわる機関  ②母性看護に携わる職種 </div> <div> 2 母性看護の対象の理解  (1) ライフサイクルに伴う形態・機能の変化  (2) 母性の発達・成熟 </div> <div> 5 母性看護に関連する生命倫理  (1) 出生前診断  (2) 不妊治療  (3) 人工妊娠中絶 </div> <div> 3 女性のライフステージ各期の看護  (1) 思春期の健康と看護  (2) 成熟期の健康と看護  (3) 更年期の健康と看護  (4) 老年期の健康と看護 </div> <div> 6 不妊症患者の看護  (1) 不妊とその原因  (2) 不妊検査  (3) 不妊治療  (4) 不妊夫婦の看護 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 <b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 (1) 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 (2) 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 (9) 女性生殖器 医学書院			



母性看護学方法論Ⅰ (妊娠期・分娩期の看護)	講師：	2 年前期	1 単位 (30 時間)
<b>授業の目標</b> I 妊娠期・分娩期に必要な看護及び保健指導を理解する。 II 正常を逸脱した、妊婦・産婦の看護を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 妊娠期の理解と看護  (1) 妊娠の経過  ①身体的特性  ・妊娠の生理  ・胎児の発育と生理  ・母体の生理的变化  ②心理・社会的特性  ・妊婦の心理の特徴  ・妊婦と家族及び社会  ・親役割の準備  (2) 妊娠経過の診断  ①妊娠の徴候と診断  ②胎児健康度の診断  (3) 妊婦の看護  ①妊婦の健康管理  ②妊婦の生活指導  ③分娩準備教育  (4) 正常を逸脱した妊婦の看護  ①ハイリスク妊娠・異常妊娠  ②ハイリスク妊娠・異常妊娠時の看護 </div> <div> 2 分娩期の理解と看護  (1) 分娩の経過  ①身体的特性  ・分娩の生理  ・分娩の3要素  ・分娩の機序  ②心理・社会的特性  ・分娩期の情緒の変化  ・夫及び家族の心理  (2) 産婦及び家族への看護  ①分娩前徴と入院時の看護  ②分娩1～4期の看護  ③陣痛、破水、後陣痛  ④呼吸法・補助動作  (3) 正常を逸脱した産婦の看護  ①異常分娩  ②異常分娩時の看護  ③帝王切開術後の看護 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 レオポルド触診法 (モデル)、胎児心音聴取 (モデル) NSTの装着 (モデル)、腹囲・子宮底測定 (モデル)			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 (2) 母性看護学各論 医学書院			

母性看護学方法論Ⅱ (産褥期・新生児の看護)	講師：	2 年全期	1 単位 (30 時間)
<b>授業の目標</b> I 産褥期に必要な看護を理解する。 II 新生児の看護を理解する。 III 産褥期にある対象への看護過程の展開方法を理解する。 IV 正常を逸脱した褥婦の看護を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 産褥期の理解と看護  (1) 産褥期の経過  ①身体的特性  ・産褥期の正常な経過  ②心理・社会的特性  ・褥婦の心理、褥婦の家族の理解  (2) 日常生活とセルフケア  ①子宮復古促進のための援助  ②母乳栄養確立のための援助  ③母子関係成立への援助  ④家族を含めた退院後の生活指導  (3) 正常を逸脱した褥婦の看護  ①産褥期の異常  ②異常産褥の看護  ・子宮復古不全  ・乳汁分泌不全  ・産後の精神障害 </div> <div> 2 新生児の理解と看護  (1) 出生直後の新生児の看護  (2) 正常新生児の生理  (3) 新生児の看護の原則  ①保温  ②栄養  ③感染防止  ④母子関係の確立 </div> <div> 3 褥婦の看護過程の展開  (1) 子宮復古促進のための援助  (2) 乳汁分泌促進のための援助  (3) 親役割獲得のための援助 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 看護過程の展開 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート (褥婦の看護)			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 (2) 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ			

母性看護学方法論Ⅲ (母性看護に必要な技術)	講師：	2 年全期	1 単位 ( 1 5 時間)
<b>授業の目標</b> I 産褥期に必要な看護技術、保健指導を習得する。 II 新生児に必要な看護技術を習得する。			
<b>授業の内容</b> 1 母性看護に必要な技術 (1) 子宮復古促進のための援助技術 ①産褥体操 ②骨盤底筋群体操 ③マタニティヨガ (2) 授乳に伴う援助技術 ①乳頭・乳房の観察 ②乳頭・乳房の手入れ ③乳頭・乳房トラブル時の手入れ ④授乳姿勢と吸着 (3) 新生児の看護技術 ①バイタルサイン ②抱き方 ③沐浴、ドライケア ④おむつ交換 ⑤哺乳			
<b>授業方法</b> 講義 校内実習 子宮復古促進の援助 授乳時の援助 新生児の援助 <b>評価方法</b> 筆記試験 実技試験 (沐浴)			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 (2) 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ			

# 精神看護学

4 単位 105 時間

目 的： 精神の健康問題の特徴を理解し、精神に障害のある対象とその家族に対する看護について学ぶ。

科目名		単位数	時間数	科目目標
精神看護学	精神看護学概論	1	30	I 精神看護の概念を理解し、精神看護の目的・機能・役割を理解する。 II 精神保健医療の変遷や法制度をとおして、精神障害者を理解する。 III 精神の健康を保持・増進する方法を理解する。
	精神看護学方法論Ⅰ (精神の健康障害と看護)	1	30	I 精神に障害のある対象の病態、検査、治療を理解する。 II 精神に障害のある対象の精神症状・精神状態に応じた看護を理解する。
	精神看護学方法論Ⅱ (精神に障害のある人のリカバリーに向けた援助)	1	30	精神に障害のある対象の生活の場を学び、リカバリーに向けた看護を理解する。
	精神看護学方法論Ⅲ (精神看護技術)	1	15	精神看護における基本技術と精神看護の展開方法を理解する。

精神看護学概論	講師：	2 年前期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> I 精神看護の概念を理解し、精神看護の目的・機能・役割を理解する。 II 精神保健医療の変遷や法制度をとおして、精神障害者を理解する。 III 精神の健康を保持・増進する方法を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 精神看護の概念  (1) 精神看護の目的・機能・役割  (2) 現代社会とメンタルヘルス </div> <div> 4 精神障害者の理解  (1) 精神障害者と家族の理解  (2) 精神障害者の家族への支援  (3) 精神看護における対人関係  ①患者理解の方法  ②患者－看護師関係 </div> </div> <div> <div> 2 精神保健医療の歴史  (1) 欧米における精神医療の歴史  (2) 日本における精神医療の歴史  ①精神科看護と患者処遇の歴史的変遷  ②精神保健医療における法制度の変遷 </div> <div> 5 危機  (1) 危機と危機介入  (2) ストレスと適応  ①ストレスと対処行動  ②適応と心身の健康 </div> </div> <div> <div> 3 精神保健医療福祉にかかわる法制度  (1) 精神保健福祉法の基本的な考え方  (2) 精神保健福祉法における処遇規定  ①入院形態  ②行動制限  ③精神保健指定医  (3) 精神障害者をとりまく社会問題  ①偏見・差別・スティグマ  ②社会的入院  (4) 人権擁護とノーマライゼーションの推進 </div> <div> 6 医療の場のメンタルヘルス  (1) 身体疾患とメンタルヘルス  (2) リエゾン精神看護  (3) 看護師のメンタルヘルス  (4) 物質依存と精神保健福祉 </div> </div> <div> <div> 7 回復への支援  (1) リカバリー  (2) ストレngthモデル  (3) 地域生活支援 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習（ストレングスマッピングシートの活用）			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学（1）精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学（2）精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院			

精神看護学方法論 I (精神の健康障害と看護)	講師：	2 年後期	1 単位 (30 時間)
<b>授業の目標</b> I 精神に障害のある対象の病態、検査、治療を理解する。 II 精神に障害のある対象の精神症状・精神状態に応じた看護を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 精神障害の病態、検査、治療の理解  (1) 精神障害の理解に必要な基本的知識  (2) 精神科における検査  ①血液検査  薬物血中濃度  ②脳波検査  ③性格検査  ④知能検査  (3) おもな精神障害  ①症状性を含む器質性精神障害  ②精神作用物質使用による精神・行動の障害  ③統合失調症、統合失調感情障害、妄想性障害  ④気分(感情)障害  ⑤神経症性障害、ストレス関連障害  身体表現性障害  ⑥生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群  ⑦成人のパーソナリティ・行動の障害  ⑧知的障害  ⑨発達障害  ⑩小児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害  ⑪性同一性障害 </div> <div> 2 精神症状・精神状態に応じた看護  (1) 幻覚・妄想状態にある患者の看護  (2) 抑うつ状態にある患者の看護  (3) そう状態にある患者の看護  (4) 興奮状態にある患者の看護  暴力予防プログラム  (5) 引きこもり状態にある患者の看護  (6) 不安状態にある患者の看護  (7) 強迫行為のある患者の看護  (8) 自傷行為のある患者の看護  (9) 操作行為のある患者の看護  (10) 発達障害の特徴がある患者の看護  3 治療の効果を高めるための看護  (1) 薬物療法をうける患者の看護  (2) 電気けいれん療法をうける患者の看護  (3) 精神療法をうける患者の看護  (4) 活動療法と看護  ①作業療法  ②レクリエーション療法  (5) 生活技能訓練 (SST) </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 生活技能訓練 (SST)			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 (1) 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 (2) 精神看護の展開 医学書院			

<b>精神看護学方法論Ⅱ</b> (精神に障害のある人の リカバリーに向けた援助)	<b>講師：</b>	<b>3 年前期</b>	<b>1 単位 (30 時間)</b>
<b>授業の目標</b> 精神に障害のある対象の生活の場を学び、リカバリーに向けた看護を理解する。			
<b>授業の内容</b>			
<div> <div> 1 精神に障害のある対象の治療環境 (1) 入院の意味 ①入院治療の目的 ②入院治療の弊害と社会的入院 (2) 治療環境を整える ①患者の権利擁護と環境 ②安全を守るための環境 ③行動制限と看護 (3) 精神科チーム医療と看護 </div> <div> (5) 整容・清潔行動を整える援助 ①清潔行動がとれなくなる要因 ②清潔行動の援助 (6) 孤独と人付き合いへの援助 (7) 身体合併症のある人の援助 ①アセスメントの基本 ②予防と指導 </div> </div>			
<div> <div> 2 精神に障害のある対象のセルフケアを整える看護 (1) セルフケアのアセスメント (2) 食生活を整える援助 ①精神状態に応じた食事の援助 ②水中毒時の援助 (3) 排泄を整える援助 ①向精神薬の影響と排泄を整える援助 ②精神状態に応じた排泄の援助 (4) 活動と休息のバランスを整える援助 ①精神状態と睡眠の影響 ②生活リズムを整える援助 ③精神状態とレクリエーション </div> <div> 3 精神医療におけるセーフティマネジメント (1) 自殺、自殺企図、自傷行為 (2) 攻撃的行動、暴力 (3) 無断離院 (4) 転倒・転落 (5) 誤嚥 (6) 災害時の精神科病棟の安全確保 </div> </div>			
<div> <div> 4 地域移行支援の実践 (1) 退院に向けての支援 ①服薬指導 ②危機介入 ③再発予防 (2) さまざまな社会資源・サービスの活用 ①相談支援 ②障害福祉サービス・精神科訪問看護 ③精神障害者保健福祉手帳 ④当事者組織 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 精神科訪問看護師による講義			
<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 (1) 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 (2) 精神看護の展開 医学書院			

精神看護学方法論Ⅲ (精神看護技術)	講師：	3 年前期	1 単位（15 時間）
<b>授業の目標</b> 精神看護における基本技術と精神看護の展開方法を理解する。			
<b>授業の内容</b> 1 精神看護におけるコミュニケーション (1) ケアの前提 (2) ケアの原則 (3) ケアの方法 ①そばにいて、遊ぶことやユーモア ②言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの活用 ・視線   ・立ち方と座る位置 ・声のトーンと速度   ・時間と場所の枠組み ・質問と応答の仕方   ・沈黙の活用 (4) 患者―看護師関係のアセスメント ①関係のアセスメント ②プロセスレコードの活用  2 精神看護におけるコミュニケーションの実際 (1) シナリオロールプレイング ・幻覚妄想に基づく言動の見られる場面 ・操作の見られる場面 ・拒否・拒絶が見られる場面 ・易怒的、興奮を示す場面 ・発達障害の特徴が見られる場面など  3 リカバリーに向けたストレングスを活用した援助 (1) 対象の理解 ①ストレングス②対象の精神症状・精神状態③対象のセルフケア能力 (2) スtrenグスを活用した看護計画の立案			
<b>授業方法</b> 講義 演習 プロセスレコード、シナリオロールプレイング ストレングスを活用した看護計画  <b>評価方法</b> 筆記試験   レポート（ストレングスを活用した看護計画）			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座   専門分野   精神看護学（1）精神看護の基礎   医学書院 系統看護学講座   専門分野   精神看護学（2）精神看護の展開   医学書院			



## 看護の統合と実践

5 単位 120 時間

目 的： 看護の役割の拡大に対応できる基礎的能力や看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。

看護 の 統 合 と 実 践	科目名	単位数	時間数	科目目標
	災害看護と国際看護	1	30	I 災害時における医療、看護に必要な知識・看護活動を理解し、災害時に必要な技術を習得する。 II グローバルな視点から看護の諸問題を学び、拡大する看護師の役割や看護活動を理解する。
	看護管理	1	15	最善の看護活動を継続的、計画的に行うために必要な看護マネジメントや看護サービスシステムを学び、看護管理の重要性を理解する。
	医療安全	1	30	医療現場における看護・医療事故の実際とそのメカニズムを知ること、医療安全の重要性を理解する。また、看護・医療事故事例を通して、事故防止の基礎知識を理解する。
	看護研究	1	30	看護における研究の意義や研究の基礎的な方法を理解する。
	エンド・オブ・ライフ・ケアと看護	1	15	I エンド・オブ・ライフ・ケアの基本的な考え方を理解する。 II エンド・オブ・ライフ・ケアを取り巻く状況の変化や現在の課題を理解する。 III エンド・オブ・ライフ・ケアの必要な患者と家族の身体的・心理社会的・文化的・スピリチュアルな特徴を学び、看護師に求められる基本的態度について理解する。

災害看護と国際看護	講師：	2 年全期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> I 災害時における医療、看護に必要な知識・看護活動を理解し、災害時に必要な技術を習得する。 II グローバルな視点から看護の諸問題を学び、拡大する看護師の役割や看護活動を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <b>I 災害看護</b>            1 災害医療の基礎知識            (1) 災害の種類と健康被害            (2) 災害医療の特徴            (3) 国際的な防災・減災の取り組みと                救援活動            (4) 災害対応にかかわる職種間・組織間                連携            2 災害看護の基礎知識            (1) 災害看護の定義と役割            (2) 災害看護の対象            (3) 災害看護の特徴と看護活動            3 災害サイクルに応じた活動現場別の                災害看護            (1) 急性期・亜急性期の状況と看護            (2) 慢性期・復興期の状況と看護            4 被災者特性に応じた災害看護の展開            (1) 子ども            (2) 妊産婦            (3) 高齢者            (4) 障害者            (5) 精神障害者            (6) 慢性疾患患者            5 災害とこころのケア            (1) 災害がもたらす精神的影響            (2) 被災者のこころのケア            (3) 遺族のこころのケア            (4) 被災救援者のこころのケア         </div> <div style="width: 48%;"> <b>II 国際看護</b>            1 国際看護の概念            (1) 国際看護の定義            (2) 国際看護の対象            2 グローバルヘルス            (1) MDGs から SDGs へ            (2) UHC            3 国際協力のしくみ            (1) 国際救援・保健医療協力分野                で活躍する国際機関            (2) 国際救援の調整            (3) 開発協力            4 開発協力と看護            (1) 開発途上国と看護            5 国際救援と看護            (1) 国際救援活動の基本理念            (2) 近年の特徴的な災害・紛争救                援活動の概要            (3) 国際救援における看護の展開            6 21 世紀の国際協力の課題         </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義          演習			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 (3) 災害看護学・国際看護学 <div style="text-align: right;">医学書院</div>			

看護管理	講師：	3年全期	1単位（15時間）
<p><b>授業の目標</b></p> <p>最善の看護活動を継続的、計画的に行うために必要な看護マネジメントや看護サービスシステムを学び、看護管理の重要性を理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <div> <div> 1 看護管理とは (1) 看護管理とは (2) 看護におけるマネジメント </div> <div> 5 マネジメントに必要な知識と技術 (1) 組織とマネジメント (2) リーダーシップとマネジメント (3) 組織の調整 </div> </div> <div> 2 看護ケアのマネジメント (1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 (2) チーム医療 (3) 安全管理 (4) 日常業務のマネジメント </div> <div> 3 看護職のキャリアマネジメント (1) 看護職のキャリア形成 (2) タイムマネジメント (3) ストレスマネジメント </div> <div> 4 看護サービスのマネジメント (1) 看護サービス提供のしくみづくり (2) 人材（ヒト）のマネジメント (3) 施設・設備環境のマネジメント (4) 物品（モノ）のマネジメント (5) 財的資源（カネ）のマネジメント (6) 情報のマネジメント </div>			
<p><b>授業方法</b> 講義</p> <p><b>評価方法</b> 筆記試験</p>			
<p><b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践（1）看護管理 医学書院</p>			

医療安全	講師：	3年全期	1単位（30時間）
<b>授業の目標</b> 医療現場における看護・医療事故の実際とそのメカニズムを知ること、医療安全の重要性を理解する。また、看護・医療事故事例を通して、事故防止の基礎知識を理解する。			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 医療安全と看護の理念  (1) 医療安全の意味と重要性  (2) 看護職の法的規定と医療安全 </div> <div> 2 医療安全への取り組みと医療の質の評価  (1) 医療安全への取り組み  (2) 医療事故への対応  (3) 医療事故の報告制度 </div> <div> 3 事故発生メカニズムとリスクマネジメント  (1) 事故発生メカニズム  (2) 事故分析  (3) 事故対策 </div> <div> 4 チームで取り組む医療安全  (1) チームSTEPPS </div> <div> 5 看護業務に関連する事故と安全対策 </div> <div> 6 看護学生の実習と安全  (1) 実習における事故の法的責任と補償  (2) 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応  (3) 習得すべき看護技術のリスクと安全 </div> <div> 7 看護・医療事故事例のシミュレーション体験とリフレクション  (1) 転倒・転落  (2) 複数患者の対応  (3) 医療機器 </div> </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 複数患者の対応、事故事例分析			
<b>評価方法</b> 筆記試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践（2）医療安全 医学書院			

看護研究	講師：	3 年全期	1 単位（30 時間）
<b>授業の目標</b> 看護における研究の意義や研究の基礎的な方法を理解する			
<b>授業の内容</b> <div> <div> 1 看護研究とは (1) 研究とは (2) 看護研究とは </div> <div> 5 研究成果のまとめと発表 (1) 論文とは (2) 論文の全体構成 (3) 発表の種類 (4) 効果的な発表方法 </div> </div> <div> 2 看護研究の始め方 (1) リサーチクエスションとは (2) リサーチクエスション決定までのプロセス (3) 文献検討の意義 (4) 文献検索の方法 (5) 文献の読み方（クリティーク） </div> <div> 3 研究を始める前に大切なこと (1) 倫理的配慮の原則 (2) 依頼と同意 </div> <div> 4 研究の設計と方法の選択 (1) 看護における研究デザインの多様性 (2) 質的研究デザイン (3) 量的研究デザイン (4) データの収集方法 (5) データの分析方法 (6) 研究計画書の作成 </div>			
<b>授業方法</b> 講義 演習 <b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版 医学書院			

<p>エンド・オブ・ライフ・ケアと看護</p>	<p>講師：</p>	<p>3年全期</p>	<p>1単位（15時間）</p>
<p><b>授業の目標</b></p> <p>I エンド・オブ・ライフ・ケアの基本的な考え方を理解する。</p> <p>II エンド・オブ・ライフ・ケアを取り巻く状況の変化や現在の課題を理解する。</p> <p>III エンド・オブ・ライフ・ケアの必要な患者と家族の身体的・心理社会的・文化的・スピリチュアルな特徴を学び、看護師に求められる基本的態度について理解する。</p> <p><b>授業の内容</b></p> <p>1 生活文化に即したエンド・オブ・ライフ・ケア</p> <p>2 エンド・オブ・ライフ・ケアのプロセスとしての意思決定支援</p> <p>3 エンド・オブ・ライフ・ケア実践のための看護アプローチ （終末期患者の事例を用いて）</p> <p>（1）成人期・老年期にある人とその家族のエンド・オブ・ライフ・ケア</p> <p>（2）在宅で療養する人とその家族のエンド・オブ・ライフ・ケア</p> <p>4 喪失・悲嘆・死別</p> <p>（1）喪失、予期悲嘆・通常の悲嘆・複雑性悲嘆とは</p> <p>（2）悲嘆のアセスメントとケア</p> <p>（3）看護師自身の悲嘆とケア</p> <p>5 臨死期のケア</p> <p>（1）臨死期とは</p> <p>（2）死が近づいた時期（週～日単位）</p> <p>（3）死が差し迫った時期（時間単位）</p> <p>（4）死亡時 成人の看取り 家族ケア 死後の処置 臨死期にある患者の急変時の対応</p>			
<p><b>授業方法</b> 講義 演習</p> <p><b>評価方法</b> 筆記試験 レポート等</p>			
<p><b>テキスト</b></p> <p>系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院</p>			

※別冊子『実習要綱』参照

## 臨 地 実 習

<p>「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」で学んだ理論や方法を臨地場面において体験し、科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な知識・技術及び態度を習得する。</p>				
3 3 単位    1 0 3 5 時間				
科 目		単位	時間	目的
基礎看護学実習	基礎看護学実習Ⅰ (病院の機能と看護の役割、日常生活援助の実際)	1 単位	4 5 時間	看護の対象を身体的・精神的・社会的・文化的側面から理解し、対象に応じた看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。
	基礎看護学実習Ⅱ (基本的欲求に基づく日常生活援助)	2 単位	9 0 時間	
地域・在宅看護実習		3 単位	9 0 時間	在宅療養者と家族を理解し、対象に応じた看護が実践できるよう学ぶ。
成人・老年看護学実習	成人・老年看護学実習Ⅰ (臨床推論を用いた急性期にある患者の看護)	3 単位	9 0 時間	成人・老年各期の対象における発達段階に合わせた特徴を理解し、臨床推論を用いて対象に応じた看護が実践できるよう学ぶ。
	成人・老年看護学実習Ⅱ (周手術期にある患者の看護)	3 単位	9 0 時間	成人・老年各期の対象における発達段階に合わせた特徴を理解し、周手術期にある対象に応じた看護が実践できるよう学ぶ。
	成人・老年看護学実習Ⅲ (合併症・二次障害予防のための自己管理が必要な患者の看護)	3 単位	9 0 時間	成人・老年各期の対象における発達段階に合わせた特徴を理解し、合併症・二次障害予防が必要な患者のセルフケア獲得にむけた看護が実践できるよう学ぶ。
老年看護学実習	老年看護学実習Ⅰ (老年期の対象の理解、生活の質を維持するための看護)	3 単位	9 0 時間	老年期の対象の特徴を理解し、加齢変化と健康障害に応じた高齢者の看護の実際について学ぶ。
	老年看護学実習Ⅱ (高齢者の健康障害に応じた看護)	3 単位	9 0 時間	老年期の対象の特徴を理解し、健康障害がある高齢者に応じた看護が実践できるよう学ぶ。

小児看護学実習	3 単位	9 0 時間	小児各期の対象の特徴を理解し、健康障害がある小児とその家族に応じた看護が実践できるよう学ぶ。
母性看護学実習	3 単位	9 0 時間	周産期の対象の特徴を理解し、褥婦と新生児に応じた看護が実践できるよう学ぶ。
精神看護学実習	3 単位	9 0 時間	精神に障害のある対象を理解し、対象のリカバリーに向けた看護が実践できるよう学ぶ。
統合看護実習	3 単位	9 0 時間	看護チームの一員としての役割を理解し、臨床判断の思考を活用しながら、複数患者のニーズに応じた看護が実践できるよう学ぶ。